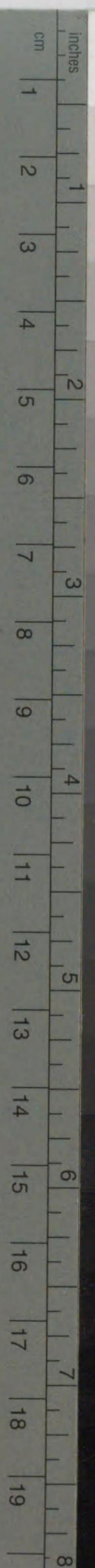


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black
1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17	18



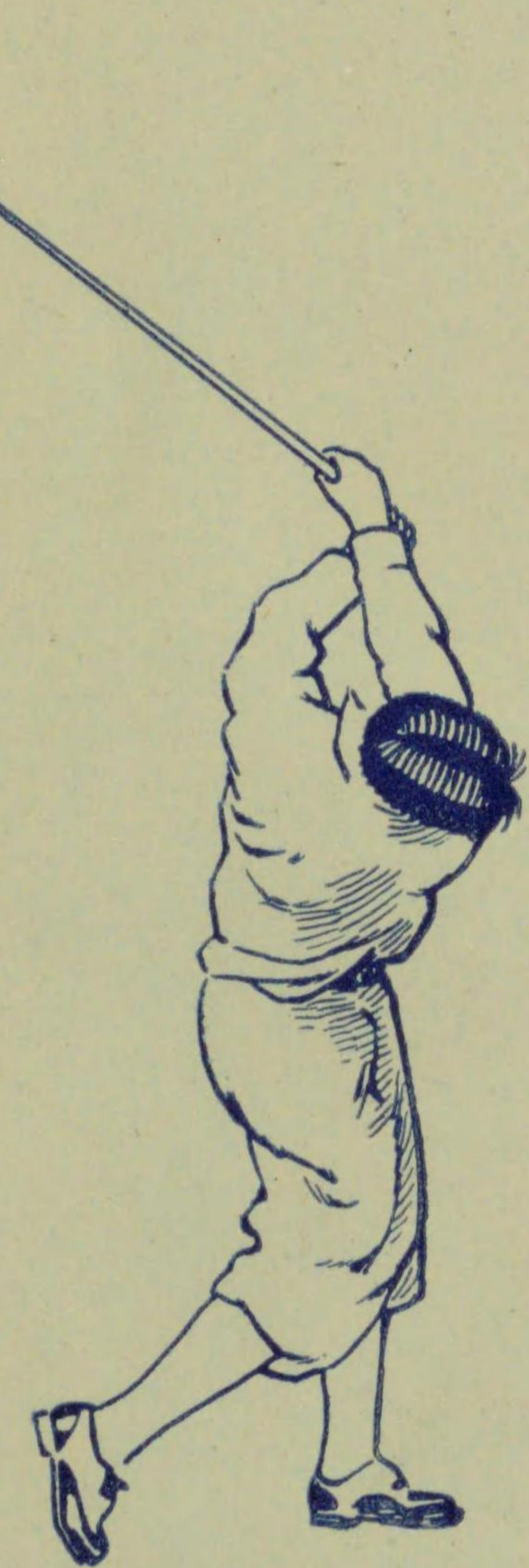
617-6
1200501536507



413

フルゴいし正

著 良士多石白



兌發 店書和黒目京東



617-6

目次

正しいゴルフ

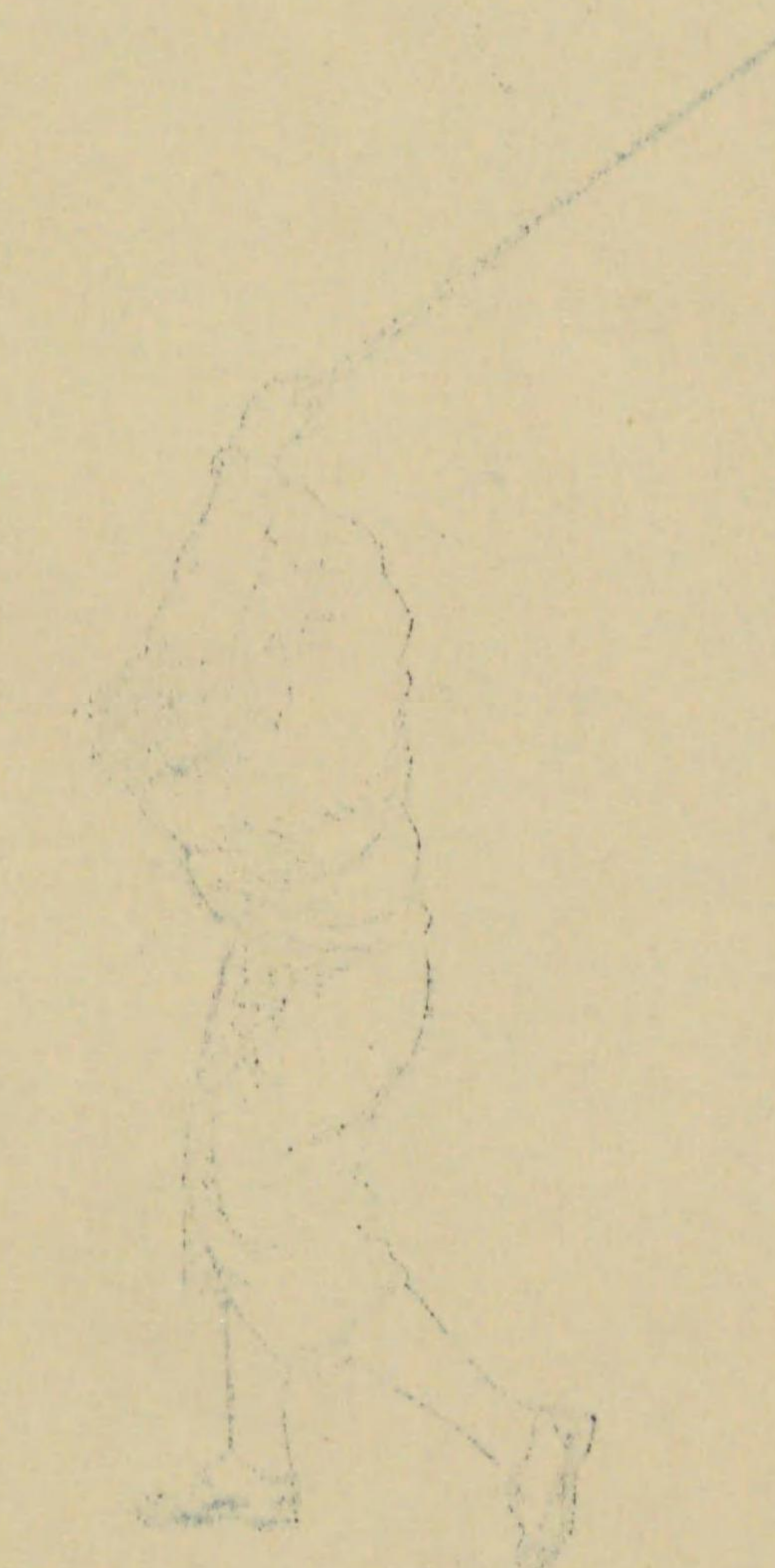
初心者でなく技術のこを御好みの方はハから読み始めて下さい

目次

序言	ゴルフ初心者の爲に	一
一	ゴルフの歴史	五
二	ゴルフの民衆化	一三
三	ゴルフの規則	一九
四	ゴルフの用具の話	二七
一	ウツンクラブ	二九
二	アイヨンクラブ	三〇

正しいゴルフ

白紙を十身巻



京目果書司

六 競 技

- 一 マッチプレー……………五九
- 二 メダルプレー……………五九
- 三 其他のプレー……………六〇
- 三 ラフ……………五〇
- 四 バンカー……………五〇
- 五 ウォーター・ハザード……………五一
- 六 グリーン……………五二
- 七 アウト・バウンド……………五二
- 八 ストロークと罰則……………五三
- 九 距離……………五三
- 一〇 パーとボギー……………五四

五

- 一 テイラー……………四九
- 二 フェアウエー……………四九
- 三 クラブの選び方……………三四
 - A ヘッド……………三二
 - B シャフト……………三二
 - C グリップ……………三三
- 四 バック……………三九
- 五 ゴルフ用靴……………四〇
- 六 ゴルフの服装……………四一
- 五 ゴルフ・コース又はゴルフリンク……………四六
- 四 ボール……………三六
 - A クラブの買入方……………三六
 - B ……三六

九 誤り易い事……………三四三

一〇 アプローチ、ショット……………二五二

一一 ハンギング、ライ……………一五五

一二 バンカーショット……………一五八

九 ゴルフコースの設計と建設……………一七三

一〇 試合に就ての心得……………一八九

四 ハンディキャップ……………六〇

五 エチクエット……………七〇

七 練習及び教えられる時の心持……………七五

八 手ほどき……………九一

一 クラブのグリップ……………九三

二 パッテング……………九六

三 水の溜つたグリーンでの打ち方……………一一三

四 術言「テクニク」……………一一四

五 ドライヴング……………一一八

六 アイヨン・ショット……………一二五

七 スキングを作ること……………一三〇

八 ウエートの移し方……………一三二

序
ゴルフ初心者の爲に

ゴルフ(Golf)を勧めるのには先づその友を何も言はずにコース(course)場に誘ひ出してゴルフボールを打たせるのが、一番の捷徑である。僕は此書の人々に讀んで貰つて、それに依つてゴルフ道へ這入つて貰ふ程良い書物を書けるとは思はぬ。併しゴルフのクラブ(club)を一度手に取られた初心者爲に、其手引草にもならばと思つて書く次第である。

僕は入るに易く、達するに難しとされてるゴルフの奥義(advanced golf)を説明する資格は到底持たないのである。併し僕はゴルフ道へ這入つてから十餘年幸ひに斯道の名人赤星六郎並に四郎兩君に、親しく手を取つてコーチされた經驗を有つて居る。其關係から技術に付ては赤星四郎君に乞ふて色々の寫眞を撮らして貰ひ、それに依つて根本の理論(fundamental theory)を説明しながら初歩の手ほどきをする。

昨年は世界の名手ヘーゲン、カークウード兩選手が日本へ來、又メルホー

ン、クルツクシヤンク兩選手も其後を追つて來て妙技を示し、次では英國一流の「ゴルフ・アーキテクト」であるアリソン氏も亦來て、或は新しいコースを設計するとか、或は在來のものを改善するとか、恰も日本のゴルフ界としては革命的の事があつた。それが爲め東京ゴルフ俱樂部及び藤澤、我孫子、相模の四新コース、又關西にあつては猪名川などの新コースが設けられ、今やゴルフ勃興の時代となつたのである。是は英米兩國の後を追うて日本のゴルフが民衆化しつゝある結果であると思ふ。斯様な際に於て本書が初心者の手ほどきの一助ともなれば僕、望外の喜びである。

ゴルフは英國のゲーム (game) として世に廣く知られて居るがゴルフの最も初めの起りは和蘭のゲームである。昔和蘭人がスコットランド (Scotland) に侵略した時、これをスコットランドへ輸入したのである。其頃のゴルフはボールもクラブも現在のものとは全然異つたものであつて、即ちホールへの如きも二つあるばかりで、甲のホールの傍から打出して乙のホールへ球を入れ、又乙のホールの傍から打出して甲のホールへ入れると云ふ風な極く簡単な組織であつたのである。それがスコットランドへ這入つてから次第に進化して今日のゴルフになつたのである。即ち今日のゴルフはホールは十八あつて、各々のコースは其距離も違へば形式の異つたものを設計し非常に興味の深いゲームになつたのである。

スコットランドへ這入つたゴルフは更に米國に輸入され、米國で非常な發達をなし、今日では名人ボビー・ジョンス (Bobby Jones) が米國に出て以來、英

米のゴルフ国際試合は遂にゴルフの元祖である英國が米國に壓倒されるやうになつた。隨て今日ではコースの數もプレーヤー(Players)の數も米國が世界第一位に居るのである。勿論ゴルフは英國より米國に傳つたのみでなく歐羅巴大陸の方にも這つて行き、佛蘭西を始め獨逸、西瑞あたりにもまでも及んで居るのである。

ゴルフが日本へ這入つて來たのは西曆一九〇〇年頃であつて、神戸に於ける外人が六甲山の山上にゴルフ場を設けたのが恐らく日本に於ける最初であつたらうと思ふ。(日本に於けるゴルフの歴史に付ては西村氏著「日本のゴルフ史」に詳述されて居る)其次には横濱根岸の競馬場の中に、横濱に在住する外人に依つてゴルフ場が設けられたのである。東京では一九一二年頃、東京ゴルフ俱樂部が駒澤に九ホールのコースを設けたのが抑も初めである。其後東京ゴルフ俱樂部の連中は駒澤の九ホールのコースに

嫌らず、どうしても完全な十八ホールのコースを有りたいと云ふ考から、諸方に其場所を求めた結果、遂に程ヶ谷に十八ホールのコースを設けることになつた。併し最初の考は駒澤を練習場にして、程ヶ谷で本當のプレーをしようと思ふのであつたが、矢張り程ヶ谷にも新しく這入つて來る人もあり、結局駒澤も程ヶ谷も兩方共成立つて行くと云ふ見込が付いたので、駒澤のコースも遂に随分無理をして十八ホールに擴張したのである。併し其頃迄の時代は、日本のゴルフもまだ民衆化されたとは言はれなかつた。

其次に生れたのが武藏野カンツリー俱樂部である。此俱樂部の起りは八王寺の傍の山の中に平山と云ふ所がある。殆ど芝もないやうな所で若い連中がゴルフを少しづつ練習して居つたのである。それが一九二六年の頃に遂に武藏野カンツリー俱樂部を組織し、萬難を排して千葉縣の六實

状態である。

其他の地方にあつては函館、岡山、熊本、諫早、雲仙、博多、別府等或は既に設けられ、或は又近き將來に開場の見込のものが相當多いのである。其數四十以上となる。

に十八ホールスを設けたのである。其コースの創立者は當初は非常な不安を以てやり始めたのであるが、結果は豫想に反して入會する者が非常に多く、遂に六實の十八ホールスのみでは足りなくなつて。更に最近藤ヶ谷に十八ホールスを増設するに至つたのである。此武藏野カンツリー倶楽部の盛大になるに誘はれて、川越の霞ヶ關、我孫子、藤澤、相模の各カンツリー倶楽部が勃興し、其他平山、柏などを加へると東京の周圍には十箇所以上のゴルフコースを見るに到つたのである。

關西に於ても東京と同じやうな經路を取つて漸次發達し、六甲のコースの次には鳴尾、垂水が出來、次で茨木の各コースが僅かの間に出來てしまつたのである。それから又寶塚のコースが設けられ、最近又鳴尾倶楽部で猪名川にコースを新しく設けるに至つた。尙ほ其外に目下目論見中のものが二三あるから矢張り關西でも間もなく十箇所以上のコースが出現する

二
ゴルフの民衆化

前にゴルフの歴史に於て述べたやうに、我國のゴルフも武藏野カンツリ
 ー倶楽部出現以來完全に民衆化して來たのである。

昔に遡て「スコットランド」或は「イングランド」に於けるゴルフは勿論、歴史的に有名なゴルフコースも澤山あるが、中には工場の職工が工場の休みの汽笛の鳴つた後で、クラブを提げボールを持つて廣場でゴルフを樂んで居たと云ふやうな、古くから民衆化の傾向はあつたのである。又亞米利加でゴルフを始めた時分には、一般のスポーツとしてゞなく、老人や紳士連が唯自分達だけの樂しみとして行つて居る者が多かつたのであつて、隨て學生などは餘りゴルフに熱中する機會がなかつた。米國の有名な大學などで學校專屬のゴルフコースを造つたのは左程古い事ではない。而して米國のゴルフは一方に於てブルジョア式の贅澤なものがあると同時に、又一方に於ては非常な勢ひを以て民衆化されて居る點もあるのである。

其一つの現はれとしては、大きな都市には大抵市の經營するパブリック・コース (Public course) (會員組織でなく誰でもグリーン・フィー (Green fee) を拂へばプレーの出来るコース) があるやうになつたのである。さうして米國に於ける最近の傾向は、ゴルフ・コースにあるクラブ・ハウスは、單にゴルフのクラブ・ハウスでなく、所謂亞米利加の社交の俱樂部を全部其處へ持つて來てしまつて居ることである。即ち宴會も舞踏會もゴルフ・クラブ・ハウスで催すやうになつて來た。隨てゴルフのクラブ・ハウスは完備を極めたものになつて來たのである。それから又米國に於てゴルフ俱樂部を經營して行くのに非常に合理的な方法を用ひて居る所がある。それは郊外の住宅地の中に、其近邊の人が聯合してゴルフ・コースを造り、お互の楽しみにもし、又社交の補助ともして之を利用し、其土地が相當繁華になり地價が騰ると、又それよりも奥の方に皆で安い地面を求めてゴルフ・コースも住宅も一緒に

轉するのである。さうすれば一面に於てゴルフ俱樂部で楽しむ事が出来、而も一面其費用は其土地の賣上高で殆ど償つてしまふと云ふ極めて經濟的な方法の中産階級の連中は行つて居るのである。

日本のゴルフ俱樂部も武藏野カンツリー俱樂部の出現以來、前述したやうな經濟的方面を慎重に考へた結果、俱樂部の經濟状態が僅かな入會金と會費で十分に成立つて行くこと云ふ事が分つたので、それで今日の如く諸所にコースが設置されると云ふ盛況を來した譯である。又ゴルフの用具の中で、ボールなども數年前に比べると其値段が非常に安くなり、今日ではゴルフをする費用は野球やテニスをする費用と大差がないのである。ゴルフ用具の中で殊に經濟的になつたのはクラブである。それはスチール・シャフト (steel shaft) の出現に因るのであつて、スチール・シャフトのクラブは、今の所最初の買ふ値段は安くはないが、木製のシャフトのクラブに比べると、

其ライフが非常に長いから経済的である。併しスチール・シャフトのクラブは値段が高いと云つても、一本十圓位のものも追々に出て来たのであるから、茲數年の中にはモット安くなることゝ思ふ。

三 ゴルフの規則

ゴルフの規則は數十條に亘つて居つて、一見非常に混入つたやうに見えるが、このルール (rule) の非常に細い原因は、今日ではゴルフは單に吾々アマチュア (amateur) のものばかりでなく、プロ (professional) の世界的の競技で、其成績は彼等にとつては大きな懸賞金があり、或は其他収入の點に於て、其勝敗が彼等の一生の運命を左右する程度のものであるから、其プロフェショナルの競技の爲に、殆ど法律の條文に等しいやうな混入つたものになつたのである。勿論アマチュアのプレーと云つても規則は嚴重に守らなければならぬが、ルール中には往々フレンドリーゲーム (friendly game) としては、餘りに嚴格過ぎるやうな感じのする條項があるのである。併し現在は前に説明したやうな理由で、非常に嚴重な條文が規定されて居るのであつて、而も是等のルールの解釋に付て屢々疑義の生ずる場合が起るが、其時には亞米利加にあつてはユー・エス・ゴルフ協會 (United State Golf Association—U.S.G.A.)—

USとも略していふに、英吉利にあつてはセント・アンドリュース (St. Andrews Golf Club) に判決を仰ぐことになつて居る。さう云ふ風にして勝敗を決して行くのであつて、其判決の例を記載したデシジョン・ブック (Decision book) が毎年出版されて居るのである。

我國は英國のセント・アンドリュース・ゴルフ倶楽部の規則をジャパン・ゴルフ・アソシエーションで用ひて居るのであるから、ジャパン・ゴルフ・アソシエーションに屬して居るゴルフ倶楽部は皆英國のセント・アンドリュース・ゴルフ倶楽部の判決 (decision) に據る譯である。僕の附屬して居る東京ゴルフ倶楽部でも時折セント・アンドリュースの判決を求めて疑義を解決して居る。總則 (general rule) の外に各コースは、其の特殊の事情に依つてローカル・ルール (local rule) を作るのである。ローカル・ルールの少いコース程完全なコースな譯であるが、大抵の倶楽部では多少はローカル・ルールを有つて居る。それ

は大抵スコア・カード (score card) の裏に印刷してあるのである。

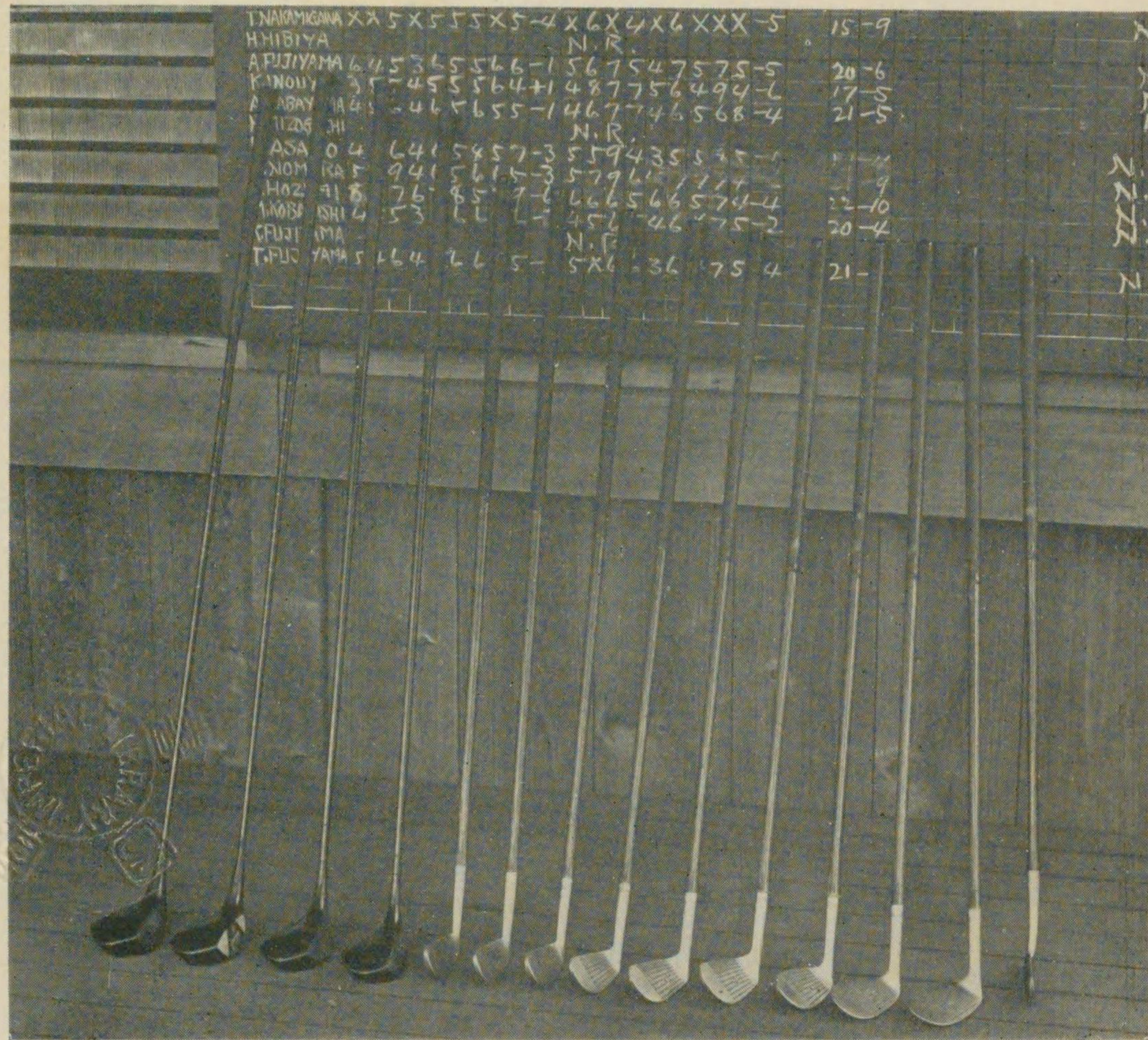
前述べたやうに、現今ではゴルフの本場は英國と米國であるから、隨て此二者がゴルフ・ルールを支配して居るのであるが、此英國と米國のゴルフ・ルールに對する態度を比較して見ると、英米兩國民性を明かに現はして居るので非常に面白く感ずる。セント・アンドリュース・ゴルフ倶楽部の方は自からゴルフの本尊であると云ふ自尊心を有つて居り、さうして英國流に何處までも保守主義であるが、ユナイテッド・ステート・ゴルフ・アソシエーションの方は何處までもヤンキー式であつて何でも新しい事は試みる。ルールを斯様に改正したが宜いと云ふやうな輿論が起きて來れば先づそれを試みる。而して試みた結果が悪ければ又元のやうに歸るし、宜ければ其儘押して行くと云ふ風で何處までも進取的である。この進取的な最近の一番顯著な例はスチール・シャフトに對してである。即ちU.S.は率先してスチー

ドリュウスではまだ研究中だと稱して居る状態である。

ル・シャフトのクラブを米國の選手権競技(Championship tournament)に用ふることを許した一事である。然るにセント・アンドリュスの方では數年來逡巡して、英國の選手権競技にスチール・シャフトのクラブを使ふことを未だに許可しないのである。

それで滑稽なことはスチール・シャフトの最上品が英國のシェーフィールドで製作されて盛んに米國へ送られて居ることである。モウ一つの例はボールの製作が段々巧みになり、又選手の技術も非常に上達したので球が飛び過ぎる。さうなるとゴルフ・コースの距離を長くするか、色々構造を變えて行かなければならぬから、之に對し球の飛ぶ距離を縮め或は風の影響其他に依つて打つた球を曲り易くする様に、球を大きくしやうと云ふ論が起つて來た。それでU.S.では一九三一年から米國に於ける大きな試合には、其改良された球を使はなければならぬことに定めたが、英國のセント・アン

四
ゴルフ用具の話



— I —

赤星四郎君のセット

ゴルフのクラブは他のスポーツの道具と比べて非常に種類が多い。それはゴルフ以外の他の球を遊ぶスポーツ即ちベースボール、テニス、クリケットなどは皆何れも動きつゝある球を打つのであるが、ゴルフは静止せる球を打つから、その爲にクラブの種類を非常に多く要するのである。球を遠くへ飛ばすには殆んどロフト(Loft)のないものを用ふる。ロフトとはクラブの面が垂直面をなす角度のことである。(第一圖参照)

ボールを飛ばす距離の短いものほどロフトの角度が多くなる。それを大別すればウツンクラブ(Wooden club)とアイオンクラブ(Iron club)の二種である。ウツンクラブはロフトが一番少く、アイオンクラブは之に次ぐものである。其角度の變化は別表に示すやうなものである。

(一) ウツンクラブ

ウツンクラブの種類をロフトの順に挙げると次の如くである。

ドライバー (Driver) ブラシ (Brassie) スプーン (Spoon)
 バフィー (Buffy)

其外に近頃は餘り用ひないがウツヅン・クリーク (wooden Cleek) と云ふのがある。

(二) アイヨンクラブ

アイヨン・クラブの種類を英國では古くからの名前を其儘用ひて居るが、近頃米國では所謂米國式に番號で區別をして居る。それを矢張りウツヅン・クラブと同じやうにロフトの順に並べると次表の如くである。大體英國の名前に對して亞米利加式の番號のそれに相當するものを對比して並べて見ると

英國式

Iron No. 1

米國式

No. 1

Iron No. 2	No. 2
Mashie iron	No. 3
Jigger	No. 4
Mashie	No. 5
Spade mashie	No. 5
Mashie niblick	No. 6
Niblick	No. 9

此外に特殊のものとしてアイヨン (Iron cleek) などがある。其ロフトは No. 1 Iron に似て居るが、尙ほ此外にパッテイング・グリーン (putting green) で球を轉がすに用ふるバター (Putter) がある。

ウツヅン・クラブも、アイヨン・クラブも何れも三つの部分より成立つて居る。

(第一圖參照)

即ちそれはヘッド(Head)(球を打つ部分)シャフト Shaft(柄)グリップ(Grip)
(柄の端の手で握る部分を革又はゴム・布等に巻きたる部分)

(A) ヘッド

ウツンクラブのヘッドは讀んで字の如く木で製作されて居るが、アイヨン・クラブのヘッドは主に普通の鐵で出来て居るのである。併し近頃は手入を簡単にする爲にさびないステンレス・スチール(Stainless steel)を用ふる。

(B) シャフト

シャフトは元は木製のものゝみであつた。是は主としてヒッコリ(Hickory)を用ふるのである。一時は竹を粉ぎ合せたものも出来たが餘り廣く用ひられるに至らなかつた。近來はスチール・シャフトが非常に多く用ひられるやうになつた。是はヒッコリの良いシャフトが段々材料が乏しくなつたのも其一原因であるが、或意味から言へばゴルフ道具の一大革命であるの

である。スチール・シャフトならば其弾性をどんな程度にでも製作する事が出来るのであるから非常に便利であるのと、ヒッコリのシャフトに比べて其耐力が比較にならぬ程良くて値段が甚だ安く得られるのとで相當に普及されて來たのである。現在ではヘーゲンとか、スポーデングとか良い銘を打つたクラブは相當に高い値で賣出して居るが、實際のスチール・シャフトの値段は安いものであるから、さう云ふ名前に拘泥しなければ初心者 の爲には此スチール・シャフトの非常に安價なクラブを提供し得るやうになつた。現に日本でも十圓位で相當に良いクラブを買ふことが出来る。

(C) グリップ

是は木製のシャフトにしても亦鐵製のシャフトにしても、其儘では手觸りも悪いし、堅過ぎて掌を傷めるから、クラブを握る部分を能くなめした柔い革か或はゴム、布等で巻いてあるのである。

ある。恰も弓を稽古するのに初めから強弓を試みやうとするのと同じ無分別である。之に付て實に面白い話がある。最初は極くシャフトの弱いセツトを以てゴルフを始めたが、一年ばかり経つて、大分スコアが纏つて来たので、経験家に相談せずに急に飛切上等のヘーデンのスティール・シャフトのセツトを買入れた。さうして是ならばより良いスコアが出るだらうと思つて、喜び勇んで日曜日にコースに出掛けて試みた所が、其人のスコアは殆ど纏りが付かなくなつてしまつた。失望の結果、もうゴルフはやめやうか知らん」とまで言出したのである。是は全く自分の腕に合はない強いシャフトのクラブを用ひたからである。それであるから初心者を使ふクラブは餘りシャフトの強くない安いもので宜いのである。シャフトの強い上等なセツトを買入れたくなつたらばプロフェシヨナルか又は相當のプレイヤーに見立て、貰つた方が宜い。さうしないと前に述べたやうな

(三) クラブの選び方

前述べたやうに、ゴルフのクラブの種類は非常に數が多いが、名人になると、バッグの中に十六本もクラブを入れて持つて居るとの事であるが、初心者はそんなに澤山クラブを持つ必要はない。先づウツン・クラブのドライヴァア、ブラッシ、スプンとアイヨンクラブの第二號、第五號、第六號、第九號とパターがあれば十分であると思ふ。モット簡單にすれば木のクラブの中のドライヴァアは初めには却つて入れぬ方が宜い。先づバッグの中に七本だけ揃へば澤山である。其他のクラブは技術の進むに従て段々と殖して行けば宜い。最初の内はクラブを随分折るものであるから、初心の内から餘り上等のセツトを揃へることは無駄なのである。が又一方から言ふと、ヘーデンなどの極く上等のクラブは、球を遠くへ能く飛ばすことの出来るやうに、シャフトが堅牢に出来て居るから初心者には逆も使ひこなせないので



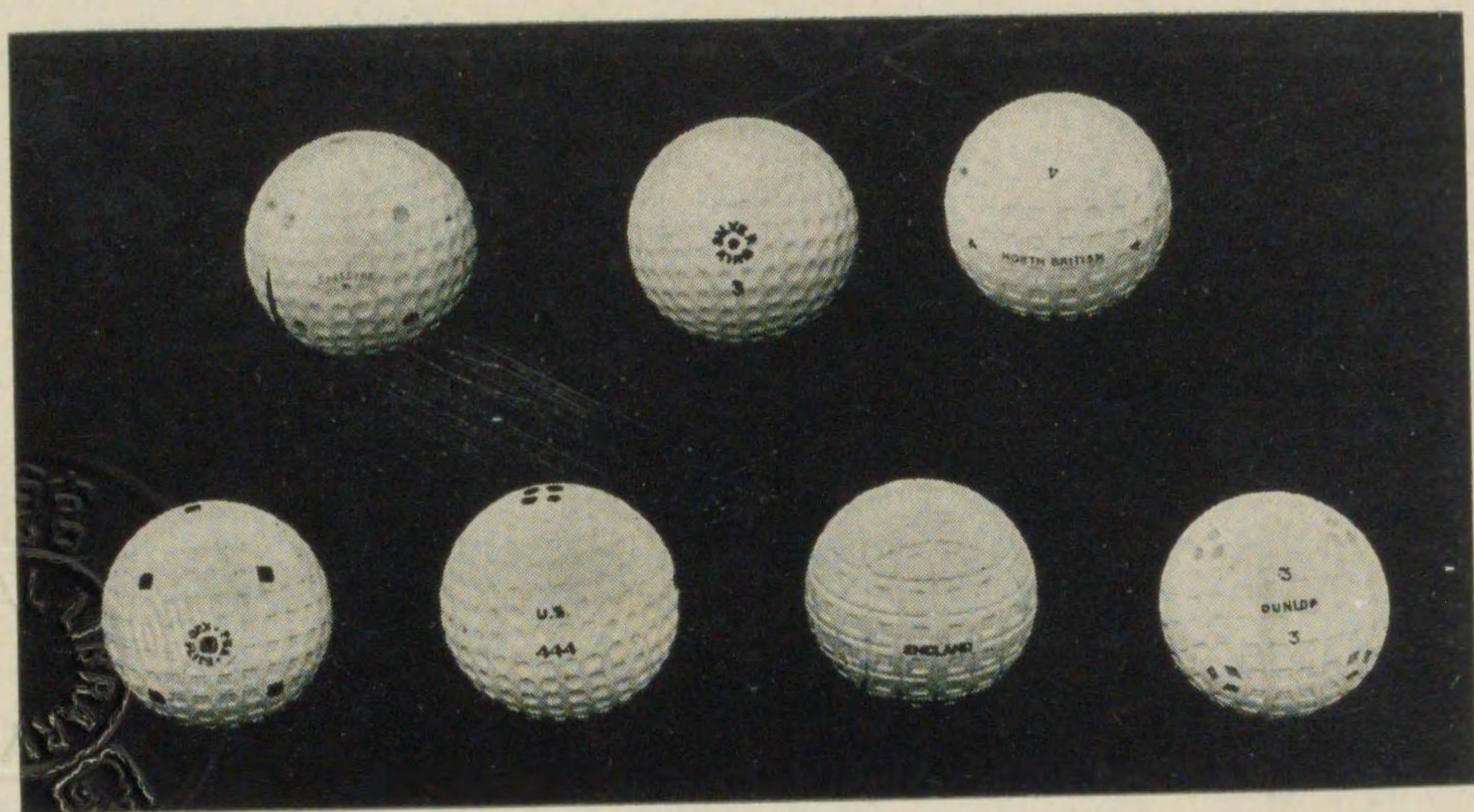
無理が生じて全くクラブが自分の腕に合はない爲に非常な不結果を來すことがある。

A クラブの買入れ方

大抵の俱樂部には其俱樂部のプロがクラブを賣つて居る。東京大阪其他各地のデパートメント・ストア三越、松屋などには運動器具部でゴルフの道具を賣つて居る。又東京や大阪にはゴルフ用具専門の店もある。

B ボール

ゴルフのボールはゴルフが創つて以來色々の變遷を経たが、現今では全部ゴムで出来ることになつた。さうしてこれが大きさと重さとは規則に依つて或制限が加へられて居るが、大別すると水に浮かない普通のボールと、水に浮くフロター (Floater) とある。フロターは (water hazard) 水中に球を打込んでも、球を失はぬために用ふるのである。球の大きさは普通の球に比



— 2 —

べると、眼に見えて大きい。勿論大きなトーナメントには用ひぬのであつて、唯普通にプレーをする時に、水の中へ球を打込んでなくするのが馬鹿らしいから用ふるのである。我國で現在廣く用ひて居るのはセント・アンドリュウスの規定に依る直徑及重量のボールである。而してボールの表面の仕上げにはメッシュ(mesh)とデンプル(dimple)の二種類(第二圖参照)が主なものであるが、近來ハルキンや色々變つた仕上のものもある。

即ちメッシュ(第二圖)と云ふのは表面が碁盤目になつて居る。デンプル(第二圖)の方は表面に小さな孔があるのであるが、別に兩方に大した特長がある譯ではない。人々の好き好みに依るのである。

而てボールの値段は普通品が一個一圓位、二三流品には七十五錢位のものもある。最近古球の表面だけを改造したものを極く安く賣出す計畫があるが、是は初心者に取つては洵に福音である。多分一個五十錢以下を

以て手に入れる事が出来ると思ふ。僕がゴルフを始めた頃今から十年前にはボールが一個二圓五十錢もした時代があつたが、其時代から見ると隔世の感がある。是はゴルフの民衆化の爲には非常に喜ばしいことと思ふ。前に一寸述べたが、米國ではボールの大きさを現在使つて居るものよりも少しく大きくしたものをチャンピオンシップなどの大きなトーナメントでは一九三一年から使用させることにしたのである。

其ボールは一番初めのドライブには大した影響はないが、セコンド・ショット (Second shot) からグリーン (Green) に近付いて打つアプローチ・ショット (Approach shot) になるとボールの直徑が大きい爲にスライス (Slice) なりブル (Pull) をかけると普通のボールより大袈裟に曲り、又風の強い時には其影響が非常に大きい。詰りアプローチ・ショットが普通のボールと比べてかなり難しくなる。各選手の技倆が非常に進歩したからボールのサイ

ズを大きくしてゲームをむつかしくする爲めである。我國は英國のセント・アンドリュースの規則を使つて居るから、まだこのボールを使はなければならぬと云ふことはない。僕も此ボールを使つて見たが、僕位の者には何等の影響がないのである。

(四) バ ッ グ

バッグはクラブを容れる袋である。旅行用のもの又は防水用のもの及び極く簡単な布で出来たものもある。旅行用のもの及び防水用のものは革又はゴム布等で出来て居り、クラブ全體をカバーで包むやうになつて居る。どれにもボールを容れるポケットが附いて居る。旅行用バッグの上等品には靴を容れるポケット、パラソルを容れるポケット迄附いて居るのがある。併し初心者には布で出来た極く簡単なもので澤山である。價額は七八圓乃至二十圓位である。

(五) ゴルフ用靴

ゴルフ用の靴は滑らぬやうに、靴裏にゴルフ用のスパイクを打附けたものが宜しい。其釘の打方は其敷を餘計に打つた方が靴が傷まなくて宜しい。勿論スパイクを打つて、ゴルフ用の靴として各デパートメント・ストアの運動器具部及び東京大阪の相當の靴屋で賣出して居るが、さう云ふ特に製造したものでなくても、普通の堅牢な靴にスパイクを打つたもので充分間に合ふのである。其他にヒダの附いたゴム裏のゴルフ用の靴もある。僕は普通の靴を履きならして少し古くなつた時分に、裏を厚く張直しそれに釘を打つて用ひて居るが、これは足に能く合つて工合が宜しい。ゴルフを始めた初心の時は其位の程度で澤山である。併しゴルフの遊技は足が大切であるから、靴は足に能く合つたものを用ひなければいけない。體裁の良いものよりも實際足に合つた古い靴の方が宜いと云ふのは其處の事

である。

或るプレーヤーは足を非常に大切にするので、ゴルフの靴を二三足用意して居つて、時々履き替える。それは同じ靴を始終用ひて居ると足に底豆(corn)が出来るのを恐れる爲であると云つて居る。それ程ゴルフ・アイは足を大切にするのである。

(六) ゴルフの服装

ゴルフの服装と云へば所謂ゴルフ・スーツと云はれる輕快なる半ズボンとニット・カボツカでそれにハデなネクタイでも付けなければならぬ様に思はれるが、之にも色々面白い歴史がある。半ズボンにスエーター一枚でゴルフをやりだしたのは亞米利加人である。ゴルフの老家である英國人は長ズボンでゴルフコースに出ても、決して上着を脱がずにプレーをして居たものである。所が亞米利加人は、何でも新しい事を試みるので、長ズボン

楚なものであることは必要である。但しトーナメントは餘程の暴風雨でなければ中止しないから常に雨具の用意を要する。其爲にゴム布で作つたズボンや上着を用意する必要がある。併し或人はゴム布の上着は中がムレて不愉快だから普通の服装でプレーして、其代り後で風を引かぬやうに着替へを全部用意する人もある。又冬はレザーのコートを着る人もあるが併し初心者がゴルフを始められる時は何もそれまで初めから用意する必要はない。段々技術が進めば雨も風も厭はずにやりだす時が必ず来る。其時に次第にこれらの服装が揃えば宜しいのである。

よりも半ズボンの方がゴルフの運動に都合好く、上着はゴルフスキニングに邪魔であると云ふ所から、構はず新しい服装で英吉利に乗込んだのである。さうして遂に國際競技で亞米利加が勝ち續けたので、英國人も長年脱がなかつた上着を脱ぎ、長いズボンを半ズボンに履き替るやうになつたのである。ゴルフの服装にも斯う云ふ歴史があるので、何もゴルフをするからハデな服装をしなければならぬと云ふ理窟はない。唯運動に便宜な服装であれば宜いのである。勿論忙がしい仕事を忘れて、清遊する爲に出掛けるのであるから、綺麗な芝生、心持のよいクラブハウスに合ふやうな明るい服装をして、その周圍に合ふやうにするのは洵に愉快なものである。併しゴルフをやる時には必ず半ズボンでなければならぬと云ふ理由は以上の歴史から推してもないのである。理想として、運動に自由のきく樂な服装が宜い。お互に遊びに行くのであるから人に不快な感を起さない程度に清

五
ゴルフコース又はゴルフリンク

ゴルフコース(Golf Course)又はリンクス(Links)とはゴルフをプレーするグラウンドの事を言ふのである。十八のホールより成立つて居るコースとリンクスと云ふ二つの言葉は現在では殆ど並用されて居る。併し語原を辿ると云ふと、全く異つた意味に用ひなければならぬのである。

ゴルフはアイス・エージ(Ice Age)の次に海岸で遊ぶやうになり、段々進歩して十八ホールを構成するやうになつたのである。其當時ゴルフ場は海岸の砂丘を縫うて設けられたものである。リンクスとは砂丘の連鎖と云ふ意味である。それ故にシーサイド(Sea side)の砂丘のあるゴルフ場はゴルフリンクスと云つて、その後ゴルフが段々盛んになつて、インランド(Inland)にも設けられるやうになつてから之をゴルフコースと稱えるやうになつたのである。それであるから今の所、日本にはゴルフコースはあるが、ゴルフリンクスはまだないのである。最近に茅ヶ崎の海岸のあの砂丘の連つ

て居る中にゴルフ場の計畫があるさうである。是が出来ればスコットランドの昔を偲ぶゴルフリンクスを日本でも持つやうになるのである。それで十八のホールは地形に應じて長短色々な距離のホールを組合せたのである。此の組合せ方はゴルフアーキテクチュアー (Golf architecture) の方から云つて、定石と云つても宜い程に大體の極りがあるものである。一つのボールは先づ平らなティー (Tee) から球を打出して、次に其ホールのグリーン (Green) と稱する能く芝を刈込んでロールを掛けた芝生の上に、直徑四時半の穴の中に球を入れるのである。それでティーからグリーンに到達する迄には途中に芝生をよく刈込んだフェアウェイ (fairway)、其兩側には草の相當に伸びたラフ (rough)、球を打損つた時に這入るバンカー (bunker)、ウオター・ハザード (water hazard) などがある。今順次其説明をすれば次の如くである。



ティーは水平のグラウンドの上に芝を植えて良く刈込である所である。ティーの上にティーマーク (tee mark) を置き、其マークの線より前と横に出ぬやう、又ティーマークから凡そ二碼位の長方形のティーの上から初球を打出するのである。(第四圖参照)

(二) フェアウエー

フェアウエーは芝を植えて球を打ち宜い程度に綺麗に刈込である所である。フェアウエーと云ふ意味はティーから打出した球をフェアウエーの上に打つて進めば樂にグリーンに到着出来る詰り正しい途と云ふ意味である。フェアウエーとグリーンとは我國では今日迄高麗芝又は野芝を用ひてゐる。缺點は冬に葉が枯れて色が變る事である。所謂西洋芝は冬草で冬も青いのである。此度東京ゴルフ倶楽部の新コースに使用するグリーンにはク

リーピング・メント。フェアウェーにはケンタツキープルーを用ひる。

(三) ラフ

フェアウェーの兩側或はグリーンの少し離れた周圍、其處は或程度まで雜草を繁茂させてフェアウェーより球が這入ると打ち難い所、ソレ球を打つてラフに這入ればロフトの少いクラブが使ひ難くなり、従てグリーンに到着するのにストロークの數が多くなる。

ラフは我國では雜草のまゝで之を適當に苅り込むだけである。英米では之に適する草を特に研究して其の種を賣つてゐる。

(四) バンカー

バンカーは地面よりも數尺掘下げ其底に砂の敷いてある場所である。

ソレ球、打損ひの球が之に這入ると餘程出し難くなる。所謂ハザード (Hazard) の一つである。種々細かい規則があるが、フェアウェーやラフよりも打難い。



一二の例を挙げると、フェアウェイやラフでは球を動かさない範囲で、球の手前の地面をクラブの頭で觸つて見ることが出来る。バンカーの中ではクラブを絶対に地に附ける事を禁せられてある。是は餘程打難いことになる。モウ一つはバンカーの中には軟かい砂が入れてあるから時に依ると、砂の中に球がもぐる。是も特殊の打方をしないと、球が打てない。おまけに其場合には球を打つても中々遠くへ飛ばすことが出来ないのである。

(五) ウォーター・ハザード

ウォーター・ハザードはティーとグリーンとの途中に池やら又は川を挟むのである。球が水の中に飛込んだら一ストローク (Stroke) のペナリチー (Penalty) を取られる。勿論水の中から球を打つても宜しい。併し五寸以上も深い水の中の球は殆ど打てない。打つても遠くへ飛ばすことは不可能である。池や川の幅が廣ければ結局ペナリチーを拂つて打直すより他に

方法はないのである。

(六) グリーン

グリーンは芝を特に密に育て、極く短く刈込みロールを掛けてなめらかな表面が作つてある。其處へグリーンの中に直径四吋半の穴をあけ、其中に旗を立て得るやうにした金具を押込み、それに旗を立てるのである。

(七) アウトバウンド

アウトバウンドとは詰りコースの地境より外と云ふ意味である。其境は杭を打つて置くとか或は溝を掘つて明かに示してある。之より外に球を打出した場合は元の所から打直すのである。總則では二ストロークのペナルチーを拂ふことになつて居る。併し我國の現状ではゴルフコースが狭いので、アウトバウンドを二ストロークのペナルチーにするのは、餘りに酷であると云ふ所から、ローカルルールで一ストロークのペナルチーに

してある俱樂部が多い。十分餘地のあるコースでは勿論コースの境より外はアウトバウンドであるが、一流のコースは大抵のそれ球は殆んどコースより外に出ないやうになつて居る。

(八) ストローク (Stroke) の罰則 (ペナルチー)

ストロークとはクラブで球を打つことである。ティーから打出して穴に入れる (hole in) までにストロークの数の少いのが勝である。即ちストロークの数がゴルフの勝負の根本をなすのである。随て色々の罰則もストロークの數で罰して行くのである。例へばアウトバウンドの時は二ストロークのペナルチーを取られる。フェアウェイでグラウンドをソールして球を動かした場合は一ストロークのペナルチーを取られると云ふ風である。此ペナルチーのケースは可なり多いのである。

(九) 距離 (Distance)

パー	三	二百五十碼迄のホール
パー	四	二百五十碼以上四百四十五碼迄のホール
パー	五	四百四十六碼ヨリ六百碼迄のホール
パー	六	六百〇一碼以上のホール

尙ほパーの定義としては、まぐれ (Blakes) なしに普通の天候で完全なるプレーをなしグリーンにては二パットとして計算する。
 婦人のパーは此と同じ理屈で別に計出してゐる。

カードには各ホールのディスタンスが記入してある。是はティーの中心からグリーンを中心までの水平距離 (Air line distance) である。各ホールの距離を合計したものを其コースの全長 (Total length) と稱する。勿論地形、バンカーその他の障害物の構造に依つて異なるけれども此全長の如何に依つて大體コースの難易の程度を測る標準となるのである。現在ではチャンピオンシップコースは少くとも全長六千五百碼なければならぬ。長いものは七千碼にも及んで居るのである。

(十) パー (Par) とボギー (Bogey)

ホールの距離の長短を標準として、其ホールのパー、ボギーを決定する。勿論地形の起伏、障害物の難易も多少は考慮するも、大體に於て距離を標準とし、其標準は大體別表の通りである。此パー、ボギーの十八ホールの合計の數も亦其コースの難易の標準となるのである。

六 競 技 (Competition)

競技の方法は大別してマッチプレー (match play) とメダルプレー (medal play) の二種である。

(一) マッチプレー

マッチプレーとは各ホール毎に勝負をきめて行くのである。例へば一番のホールで甲が四でホールアウト (Hole out) し乙は五かかつたとすると、其ホールで甲は乙に勝つたのである。斯様にして各ホール毎に勝負をきめて、十八ホールで勝負をきめる場合ならば、例へば十五番を済んだ時に、甲が乙に對して四ホールだけ勝ち越せば、甲は乙に (Four up and three to go) 四と三で勝つたと云ふのである。

(二) メダルプレー

メダルプレーとは、例へば十八ホールのメダルプレーと云へば其人の打つたストロークの數を合計して其數の少い人を其試合の優勝者とするの

である。

(三) 其他のプレー

此外にも色々な競技方法がある。例へばアゲンスト・パー (Against par.) 又はアゲンスト・ボギー (Against Boggy) と稱するものがある。それは各ホールの par 又は boggy を假想敵として各ホールの勝敗をきめ、それに對する勝星の多いもの場合に依つては敗星の少ないものを優勝者とするのである。又ツームストーン (Tomb stone) 是は其コースのパー又はボギーの合計に其人のハンディキャップ (Handicap) を加へ、其數だけ打つて、最後にボールの落ちた所に標をするのである。其標の一番先まで行つたものを優勝者とする。

(四) ハンディキャップ

ハンディキャップとは其人の技術に應じて、ストロークの數を差引くやうにきめるのである。此ハンディキャップがある爲に、非常に技術の巧みな人と下

手な人とでも愉快に試合が出来るのである。日本の碁將碁に於ける段と違つて一度段を付けたらば容易に變えないと云ふやうなものではない。其人の當り工合に依つて年に數回上げたり下げたりして居る。併し巧い方のハンディキャップになると、割に動くことが少くなる。此ハンディキャップの標準は非常に議論のある所であるが、各俱樂部には大體に於て其コースのパーを標準にして、それから各人のハンディキャップをきめて居る。又英・米兩國には其國の標準になるハンディキャップがある。例へば米國のメトロポリタンのハンディキャップ (metropolitan handicap) の如きがそれである。

日本でもそれに倣つてデヤバン・ゴルフ・アソシエーション (Japan Golf Association) 略して J.G.A. と稱して (でナショナル・ハンディキャップ (National handicap) を定めて居る。是は J.G.A. に參加して居るゴルフ俱樂部のオフィシャル・トーナメント (official tournament) ゴルフクラブ主催の試合に於て、八箇月間に

得た最も好成績のスコアを三枚其俱樂部の名譽書記に提出し、俱樂部に於てそれを認め、J.G.A.に提出する時は、J.G.A.の委員會に於て銓衡の上其人のナショナル・ハンディキャップを與へるのである。それで今申すナショナル・ハンディキャップは、丁度米國のメトロポリタン・ハンディキャップと同じやうに、日本中共通のものとして、又各俱樂部のハンディキャップも凡そ之に合ふやうなものにしたいと云ふのが趣意である。我國でもJ.G.A.主催の下に、毎年アマチュア・チャンピオンシップ (Amateur championship) とオープン・チャンピオンシップ (Open championship) と二大競技を催して居る。

それでアマチュア・チャンピオンシップで、ナショナル・ハンディキャップ十四以下、オープン・チャンピオンシップではハンディキャップ八つ以下のものに出場を許して居る。

ハンディキャップはメダル・プレイを標準として附けてあるから、マッチプレ

いの場合には其儘では不適當である。最近まで日本でも、英國の例に倣つて、マッチプレーの場合には、ハンディキャップの差の四分の三だけのストロークをマッチプレーに用ふることになつて居つたが、今年から此四分の三と云ふのは別にセント・アンドリュースのゼネラル・ルールのきめではないから、變更しても宜いと云ふ見解の下に、東京ゴルフ俱樂部ではメダル・ハンディキャップの差の八分の七を以てマッチプレーのハンディキャップとして當分試みることにした。マッチプレー・ハンディキャップはどう云ふ風にするかと云ふに、スコア・カード (Score card) のハンディキャップの行に其順が書いてある。大體に於て一番距離の長い難しいホールから順次にハンディキャップをやることになつて居る。

勿論チャンピオンシップ其他の大きなトーナメントはメダルプレーにしても、マッチプレーにしてもスクラッチプレー (Scratch play) 即ちハンディキャ

ツブを全然用ひないものである。我國ではアマチュア・チャンピオンシップは三十六ホールのメダルプレーでクウオリ・ハイキング・ラウンド (Qualifying round) を行ひ、それで三十六ホールスをプレーしたストロークの数の少ないものから順次十六人だけを選ぶ。之をオートマチック・ドロウ (Automatic draw) で組合せて十六人の優勝試合をさせるのである。

オートマチック・ドロウとは今の十六人を成績順にして番號を付ければ一番成績の良い一番と一番成績の悪い第十六番とを組合せ、其次に第二番と第十五番とを組合せ、其次に第三番と第十四番とを組合せ、順次同一筆法で組合せるのである。

それからオープン・チャンピオンシップの方は七十二ホールのメダル・プレーの一番ストロークの数の少ないものを優勝者とする。第一日に三十六ホールをプレーさせ、その一番成績の良いもの、即ちストロークの数の

一番少い人よりも二十ストローク以上差の付いた人は、第二日に出場させないやうにして居る。さうして最後に七十二ホールの合計のストロークの数の少ないものを優勝者として居る。

此外に關東關西のインター・ディストリクト・マッチ (Inter district match) と云ふものを毎年行つて居る。此試合の方法マッチプレーで雙方より十人づゝの選手を選抜して午前にはホアーボール・ホアーサム (fourball foursome) の十八ホールス・ベストボール (18 Holes Best Ball) のプレーをやるのである。それは關東關西二人づゝ組んで、對抗するのである。組の二人の各ホールの成績の良い者同志を比較して其ホールの勝負をきめるのである。一例を云へば一番のホールで、關東の甲が五ストローク乙が四、關西の丙が三、丁が六と云ふ成績の場合、關西の三と關東の四とを比較して關西の三が勝である。即ち其ホールは關西方が勝と云ふ風にして勝負をして行くのである。

午前は都合五組の試合があり、その得點は一組一點と云ふきめになつて居る。午後にはシングル(Single)を十組、十八ホールスをプレーする。午後には各組の得點が一點と定めてある。午前午後を通じて其勝星の多い方が勝となるのである。勿論此方法も外國の國際試合などの例に則つてきめたものである。

各俱樂部内で行ふ試合は、クラブ・チャンピオンシップを除く外、大概ハンディキャップ附の試合である。其方法は前のチャンピオンシップの時に説明したのと同じやうに、全然メダルプレーできめるものと、コリアファイングラウンドを用ひ、後にマッチプレーで優勝者をきめるものと、二種類ある。ハンディキャップを用ふる場合は、メダルプレーでは其人の打つた全體のストロークから、其人のハンディキャップを引いたネット(Net)を比較して、その一番少いものを優勝者とするのである。クオリファイングラウンドの計算

の仕方も之と同じである。

それから平常唯慰みに勝負をする時には、二人三人又は四人で廻るのである。二人(Single)切りで廻る時は、普通のマッチプレーでやれば宜しい。四人で遊ぶ場合には四人が銘々對抗して勝負をしても宜しいが、二人づゝ組にして試合をするのも一興である。其場合に四人の技倆が殆ど互角ならば關東、關西試合のやうに、ベスト・ボール・オンリー(Best Ball only)で、兩方のベスト・ボールを組合せ、各ホールの勝負をきめて行くのも面白い。併し技倆の相當に隔りのある場合には上手な者と下手な者が一組となつて、二組に分れてベスト・ボール・エンド・アグリゲート(Best Ball and Aggregate)で競技するのも亦一興である。此方法は一つのホールで、ポイント(Point)を二にして置くのである。

前のやうに兩方のベスト・ボールを組合せて、それで一點きめる。他の一

點は兩方のスコアを寄せたもの同志付き合せて見て決るのである。例へば甲と乙と組み、丙と丁と組んでやる時、甲が四で乙が七、丙が五で丁が五を云ふ場合にはベストボールでは甲の四と丙の五と付合せるから甲乙の組の方が、丙丁の組よりも一點勝である。併しアグリゲートの方では甲の四と乙の七と加へて十一、即ち甲乙組が合計十一、丙丁の組は丙の五と丁の五との加へたものは十であるから丙丁組が勝ちである。それであるから其ホールは勝負双方一點々で勝負なしで、所謂それはタイ(tie)と云ふのである。さう云ふ風に計算をして行くのである。此方法で競技すれば上手と下手が一緒になつて可なり面白く遊べる。それからツールボール・フオーアサム(tow ball foursome)と云ふやり方がある。

是は甲乙二人が一つの球を交互に打つて行くのである。即ち雙方のパーティー(party)が一つの球を交互に打つて行くのである。さうして普通の

ツチプレーをやるのである。是は男二人、女二人詰り四人で遊ぶ場合に男女同志が組んでやると面白い方法である。斯う云ふ風に色々な方法があるが、其氣分も全く違つて來るのである。

併し世界的のチャムピオンシップなどになると、例へば英國のアマチュア・チャムピオンシップはクオリファイング・ラウンドは七十二ホール、それから三十二人クオリファイする。即ち最優等者は二日に亘るクオリファイイング・ラウンドをプレーして、毎日二人宛十六人を倒すのであるから、全體で十日間も朝から晩までプレーをしなければならぬ。斯う云ふ試合になると、技倆のみではいかぬ。全く體力の持久戦になるのである。随分男性的な烈しいスポーツの一つとなる。逆も生優しいトレーニング(Training)では此試合に臨めるものではない。

ゴルフの事を能く婦人が老人のゲームであると云ふが、斯んな試合にな

つたら老人や婦人では逆も出来ないものである。併し一番終ひに説明したやうな、ツーボール・フオーアサム見たやうなゲームは極くのんびりした如何にも優しい遊びである。

此様にゴルフは其プレーの方法に依つては、若い人の烈しい練習にもなるし、又老人や婦人の散歩がてらのやうな優しいゲームにもなるのである。是がゴルフの非常に特長のある所である。

(五) エチケツト

どんなスポーツにも *Etiquette* (禮儀) と云ふことは非常に大切な事であるが、殊にゴルフでは多勢の人が一緒に、同じ芝生の上でプレーをするのであるから、お互に邪魔にならぬやうにエチケツトを守る事が特に必要がある。お互に愉快に遊ぶ爲に、之を守らなければならぬのである。

先づ第一にゴルフと云ふゲームは静止して居るボールを、而も非常に小

さな球を打つのであるから、打つ瞬間に物の動くのが見えたり、大きな音がすると失敗し易いものである。原則としては成るべくゴルフ場内では静肅にすると云ふことである。併しそれも程度のある事であつて、赤星六郎君が亞米利加から歸つて來て、日本のゴルフ場に這入つたらば、餘りに皆が嚴肅な顔をして物も言はずにプレーをして居るので、非常に奇異な感に打たれた。勿論遊びであるから笑ひもしやうし、戲言も言ひながらプレーをして宜いのである。併し常識的に考へて、自分達の組で一緒に打廻つて居る人ならば宜しいが、他の組の人の打つて居る傍を通る時などに餘り大きな聲で笑つたり、向ふの人の打つて居る後を構はずドシ／＼歩いたりすることは慎まなければならぬ。又例へばダフ(Duff)をして芝をはがした時そのディボット(Divot)を元の如く埋めて置くとか、バンカーの中に這入つたらば自分の足痕を能く消して出るとか、細いことは各倶楽部のエチケツトの注

意書に書いてある。

それからもう一つ最も大切な事は、自分達のプレーが非常に遅い場合には、後から来た組を追抜かしてやることである。是は大抵の倶楽部の規則として、自分達より前の一ホールに人が居なくなつたらば、それは自分達の組の進みが遅いので、後ろの組を押へて居る證據だから其場合には、後ろの組を抜かしてやることになつてゐる。所が之を抜かしてやるのにも、抜かしてやる時に能くやることは、向ふに一度抜けと云つて合圖をしてから又自分達が打出すことがある。抜かせる時には徹底的に待つて、完全に抜かせないと、却て其爲にゴタ／＼して時間が掛つて、又其次の組を待たせるやうな事になる。だから抜けと合圖をしたらば自分は横に避けて、後から来た一組だけを完全に前に通してやる必要があるのである。

マッチプレーの場合には規則の上から云つても、ホールに遠い方が人が

先に打つことになつて居る。是は試合の上からの規則であるが、お互に試合をせずに廻る時にもホールへ遠い人から打つて行くことに習慣を付ける必要がある。ゴルフの球は當れば相當に酷い怪我をする。それであるから人が球を打つ時に、それよりも前に出て行くことは球が當る危険がある。此點から云つても、禮儀として穴に遠い人から順に打たして、成べく四人ならば四人が話をしながら進めるやうに、餘り前後に離れてしまはぬやうに、プレーをして行くことが必要である。エチクエットとしてはまだまだ細かな事は澤山あるのであるが、前に述べたやうに、多勢で一緒にプレーをするのであるから他のプレーヤーをディスタンプ (Disrupt) しない範圍で愉快にゲームをし、又ダフった後を直さずに置けば其次に来た人の球が、若しも其處にでも這入れば非常に氣の毒な事になるから、それを直して行くとか、バンカーの足痕も、其足痕に次の人の球が這入れば又非常に打ちにくく、

なるから之も直すと云ふ風に、人に迷惑を掛けないやうに心掛け、後ろの組を抜かせるのもコースの全體の混雜を避ける爲である。それからゴルフの球が當れば非常に危険なものであると云ふことを頭に置いて、例へば自分の相手の球よりも先に出て歩く事を慎むのは、パートナーのプレーをよくする爲でもあるし、お互に危険を避ける爲でもあるのである。

七 練習及び教えられる時の心持

僕の経験に依ると、どのスポーツを始める時でも、難しい事から先へやつて見たいと云ふ感じを懐くものである。ゴルフに付ても矢張りさうで、僕がゴルフを始めた時も、或は又友人に勧めて始めさせた時も一番初に打ちたがるのはドライバー (driver) である。極端なコーチャーはプター (Putter) から先に練習しろと言ふが、何れにしても先づ初には球に馴染むことが大切なのであるからロフトの多いマシー (machine) 位から始めるのが宜いと思ふ。勿論マシーばかりでは打つ氣にはならぬ。直ぐ遠くへ飛ぶドライバーを持出したくなるのであるが、是は最初の序言に述べたやうにゴルフを人に勧めるのには、先づドライバーを持たせて打たせるに限る。コバルト色の大空にあの白い球を遠くの方へ飛ばして、その球が緑の芝生の上をコロ／＼と轉つて行くのを見るのは、何とも云へない宜い氣持のするものである。それで誘ひ出すゴルフであるから、初の内はドライバーを絶対に持

つてはいかぬなどとは言はぬが、勿論初心の方でも初めて打つた球が二百碼も飛ぶこともあるのであるから、ドライバーで幾度も打損つて居る内には良い球が飛ぶこともある譯である。それが又ゴルフの忘れられない愉快な所である。それはそうとして練習には矢張り成るべく易いクラブから馴らして球に馴染んだ方が宜い。

その一番好い例が僕自身である。僕は初めてゴルフクラブを握つて以來今日迄十數年になるが、ゴルフらしき球が空中に飛ぶやうになつたのはホンの二三年此方のことである。それ迄は勿論ゴルフを樂んでは居つたが、初めに練習の方法が悪かつた爲に、悪い癖が澤山付いてしまつた。甚だ僭越であるが、自分の練習の経験を少しく述べて、僕の辿つた失敗のわだちに諸君が再び落ちぬやうにと願ふ次第である。

抑も一番初めに、僕がゴルフクラブを握つて球を打つた時には、僕をゴル

フ場に引張り出した友人も練習の方法などには、餘りまだ詳しい知識を有つてはゐなかつた。さうして二三年過した時分に、駒澤ヘトム・ニコル (Tom, Nickol) を云ふプロが來た。此人は僕にマツシーを執つて練習を始めさせた。併しそれがまだものにならない内に、其プロが居なくなつて、次にはスミス (Smith) と云ふ英國人の若いプロが來た。彼は初めから僕にドライバーを教えやうと掛つた。不幸な事にはニコルとスミスとは身體の構造からスウィング (Swing) の仕方から總てが全然正反對であつた爲に、僕はどうして宜いのか分らなくなつてしまつた。所がスミスも間もなく駒澤を去つて、僕はコーチャーがなくなつたので、仕方なく暫く自己流で只球を打つてはコースを廻つて歩いて居つた。するとその後、フッド (Food) と云ふプロが來た。此人は又ニコルと同じやうに、僕にマツシーを持たして練習を始めさせた。けれども僕は生來餘程不器用だと見えて中々進歩しなかつ

た。其内にフードも亦關西へ去つた。そこで又僕は以前の極端な自己流に歸つてしまつた譯である。それから後暫らく經て、我國のゴルフの名人赤星六郎君が米國から歸つて來た。その夏輕井澤で一緒になつた時僕は六郎君に「僕は球が全然空中へ上らないがどうしたら宜いか」と相談を持掛けた所が、六郎君は僕の掌を見て、其掌中マメだらけになつて居る僕の手と、これといつて別に堅いマメらしいものゝない彼氏の掌とを比べて見せ、さうして「君のやうに掌中デコボコにマメが出來て居るのはクラブの握り方が全然間違つて居るからだ。グリップから先づ全部改めなければ到底球は空中には昇るまいと思ふが、然しさうするには三ヶ月位は全く勝負をしては駄目である。若し人と勝負をすれば、折角昇るやうになつても、必ず元の木阿彌になつてしまふから、自分も教える甲斐がないが、僕の言ふ通りを守るかどうか考へて見給へ」と言つた。僕は即座に「君の言ふ事を斷然守る

から何とかして球が空中へ昇るやうに教えて呉れ」と頼んだ。それからクラブの握り方から手を取つて直して貰ひ、ドライバーの打方を夏中教えて貰つた。教える六郎君も非常に熱心であつたが覺える僕も洵に柔順な弟子であつた。さう云ふ風で暫く練習して、其秋の十一月に程ヶ谷で一年振りでゴルフ旅行で歐米を一順して歸つた二人の友人と一緒にプレーしたところが、僕としてはレコードのスコアが出た。即ち程ヶ谷を八十で廻つたのである。それで其勢ひで尙ほ六郎君の教えを遵奉して居つたならば、或は今日相當の選手になれたかも知れぬが、僕はモウそれで以て我事成れりと思つたので、其後は六郎君の教えを眞面目に聽かなくなつた。今迄のやうな練習方法を全然やめて、又以前やつた自己流に歸つて、唯コースをぐるぐる廻りだしたのである。さうして一箇月を出でずして僕は元の木阿彌になつて球は空中に昇らなくなつてしまつた。

そこで僕は再び六郎君に教えを乞ふたところが、モウ今度はどうしても教えては呉れなかつた。のみならず六郎君の兄さんの四郎君を通じて破門の宣告を受けねばならなかつた。それで詮方なく又其儘で二、三年を経過した。さうして或時六郎君に「何故に僕を破門したか」と聞いて見ると、六郎君は「僕は白石に教えるのが嫌になつたばかりでなく、日本の人にゴルフを教えるのが嫌になつたのである」と云ふ事を前提に六郎君の述べた理由を玩味して見ると、洵に興味ある事實を發見する事が出来る。即ち日本のゴルファー (golfer) はコーチを受けることを知らない。教える方と雖も勿論神様でないから、どう云ふ型がその人に適して居るか、適して居らぬか先づやらせて見なければ分らない。ところが或型を或る人に教えると、其人は一週間も経たない内に、どうもあの型では球が當らないから斯うしたらどうかと言ひだす。せめて一月位も續けて見た上で、其型ではどうも旨く行

かなければ其型は其人に適しないと云ふ證據になるが、僅か一週間も練習するかしない内に、どうも當らないから他の型を教えよと言つても赤星君にはどうすることも出来ないと言ふのである。斯う云ふ癖は單に僕ばかりではなく、六郎君に教はつた當時の僕の友人達は皆さうであつた。是非非常に参考になる事と思ふから特に茲に述べる。僕の學生時代からのことを考へるとゴルフばかりでなく他のスポーツ即ちフットボールでも、ラニングでもベースボールでも皆同じ傾向がある。近頃は餘程能くコーチヤーの言ふ事を聴くさうであるが、僕達が學生の時代から最近に到る迄は此風が日本のスポーツ界の缺點であつたと思ふ。

亞米利加のスポーツの行き方は何處迄も科學的、實驗的の行き方であつて、コーチヤーの思ふ通り、例へば甲の型を或程度迄は徹底的に練習をさせて見て、それでいけなければ乙の型に變えて、それで又試みさせて見るので

一體僕の最も大きな缺點はバックスウィング (Back swing) が後ろ迄行き過ぎて、どうしても止るべきところで止らないのである。それを止める爲めには六郎君も随分考へて呉れ、僕も随分苦勞をしたが、どうしても止らない。半年目に非常なショートスウィング (short swing) で殆どグリップを腰と平ら位の所へ持つて行かせて、其處から僕に打たせたのである。其恰好は第二十二圖を参照されたい。

それでやつとバックスウィングが人並の所で止るやうになつた。そこで今度はホロー・スルー (follow through) の方の研究に取掛り、今尙ほ研究中なのであるが、生來不器用な僕は中々思ふやうには行かない。六郎君も一方ならぬ苦心をして教えて呉れるが、僕も大器晩成を楽しみに怠らず練習を續けて居る。所が僕のバックスウィングを普通の所で止める爲に、六郎君は半年苦心をした結果、今度は六實の新進の若い連中に、其方法を應用して教えた所、驚

ある。さうして其乙の型でも不可ければ又違つた丙の型で以てやつて見る。其内にどれか其人に適當な型があれば、それにきめて進んで行くと云ふ行き方である。要するに教えを受ける者は、コーチチャーの満足する迄練習を續ける必要がある。僕が六郎君に破門されたのは、其辛抱がなくて、さうして洵に我儘な教え子で、一週間やつて違つた型を教えて呉れなければ、此コーチチャーは不親切だと云ふやうな感じを有つたからである。今から考へると洵に滑稽な出来事であるが、其後どうしてコーチを受けたら宜いかと云ふことを六郎君から聽いて、段々と解つて來たのである。それで二年程前に僕は六郎君に「今度こそは君の言ふ事を絶対に服従するから、どうかもう一度僕のドライブイング (Driving) を根本的に直して貰ひたい」と頼んだ。今度は六郎君も喜んで引受けて呉れ、半年ばかりは教える方も教はる方も非常に熱心であつた。

あまり理窟ぼくなり過ぎて、無心に練習が出来なくなつてゐるからである。六郎君も今日の名人の域に達する迄には随分同じ型を根氣よく練習したと云つてゐる。

完全なスキングはスキングを部分／＼に分けて感じる様な事なく機械的にクラブを振れる様にならねばならぬ。練習の結果それが出来てからスキングとしての本来の仕事、即ち目的の場所に考へ通りの打ちかたでボールを送る事が出来るのである。

初心者は練習の始めからボールを真直に遠くへ打ち飛ばさうとして、やつたらに力を入れすぎるのが普通である。これは初心者ばかりでなく、相當に古い方のプレイヤーでも練習の時に「真直に遠くへ」とのみ考へてゐる人がある。先づ第一に必要な事は「ボール」に正確に「クラブ」を當てることである。これをやるには、どうしてもスキングが根本に理論に合してなければな

く程球が飛ぶやうになつた。六郎君と四郎君が其人達を駒澤へ連れて来て、コーチをして居るのを見ると、どの球も二百五六十碼飛んで行く。それで其若い人達は我事成れりと喜んで、一週間か二週間又六實へ行つて練習をして来る。さうすると其間に又球が飛ばなくなつて六郎君の所へ歸つて来るのである。さうすると亦六郎君がつききりで、同じ方法で打たせると又非常に球が飛びだす。斯う云ふ事を繰返して居た内に、其人達はもう今日では其距離が段々と定つて来たのである。

斯う云ふ風であるから練習の方法には可なりの辛抱が必要で、さうしてコーチを受けるのには、或意味に於て自我を滅却して取掛らないといけないのである。それは極く若い二十歳前後のプレイヤーには、或は斯んな説法をする必要はないかも知れぬが、中年からゴルフを始められる方は、餘程注意をされないと中々出来ない事である。それはゴルフをやるのには、頭が

らぬ。而して其の根本に正しいスキニングが前にも云つた様に、何處が悪い、彼處が誤つてると云ふ様な部分に分けての感じでなく、無心に機械的になるまで練習で持つて行かねばならぬ。

ゴルフを初めるに、子供の折にクラブを振つた経験のある人は進歩が早い。どうも外のゲームをやつた人はメンタル・サイドとしては助けになるが、機械的のスキニングの方には返つて害をなす場合があるから餘程注意せねばならぬ、クリケット、テニス、擊劍等から入つた人はリストがききすぎて小手打ちすぎるし、野球からの人はどうもバッティング式に横なぐり式のスキングになりやすい。

野球で有名だつた中野老鐵山君がゴルフを始める前に、すべての運動の基礎は腰にありとの根本理論から、代々木の練兵場を野球の「ユニホーム」にスパイク・シューズで腰を振りくマラソン走り、腰を強くしようとした。

此れは氏が多年の野球のバッティングのコーチから案出されたのである。

これに符合した話がもう一つある。岩崎恒彌、東龍太郎の兩君がロンドンのテムス河でビルと云ふスカールの老コーチャーに教へを受けた時、朝起きると直にテムス河畔を一哩程マラソン式に腰を振つて駆けさせ、それからスカールの練習に取かゝらせたとのことである。

ゴルフのスキニングの根本運動はピボット (Pivot) 即ち腰の廻し方である。根本は野球もスカールもゴルフも同じではあるが、動きの方向がゲームに依つて異つてくる。

それだから、どうも外のゲームのことを頭に置いては、却つてゴルフの害になる様である。ゴルフはゴルフで、初めからのつもりで、練習した方がよい様である。その方が外のゲームで出来た事が返つてどこかに有効に出現してくる。この部分は外のゲームの何處に似てると云ふ風に複雑に頭

をはたらかせる事が、すでにメカニカルスキングを練習する目的に反するのである。大人が小供に及ばぬ處である。白い紙に新しい氣持ちで御習字をした方がよいのである。又そこに新しいゲームを練習する新鮮さがあるのではないか。

八手ほどき

是から主として赤星四郎君並に安田、淺見の兩プロフェショナルの寫眞に依てゴルフの技術の極く初歩の手ほどきをする。是等の寫眞は一九三一年六月二日東京ゴルフ倶樂部の駒澤コース及び八月三日程ヶ谷カントリー倶樂部で撮影した寫眞である。

(一) クラブのグリップ (Grip)

クラブののグリップ、つまり握り方はゴルフの技術の基礎をなすものであるから初めが大切である。一度間違つた握り方に習慣が付くと中々正しい握り方に直せないものである。それだからゴルフを習ひ始める時に餘程氣を付けねばならない。

面白い事には子供に何も教えずにゴルフクラブを當てがうと、普通に吾々が握ると必ず反對の握り方をする。即ち普通の握り方は右手を先にして握るが、子供は全然それと反對の握り方をする。それと同じやうに初

心者は各、勝手な握り方をするものである。それだからゴルフを始める時は、どうしても相當のプレーヤーに握り方を最初から直して貰ふことが必要である。その根本の握り方には、色々な型があるが、どの型が其人に適するかは、或程度まで技術が進歩してから定まることである。併しどの型にした所で、間違つた握り方は早く其習慣の付かない内に直さないと取返しの付かない事になる。僕の経験談に述べた通り握り方から邪道に陥る場合が多い。

第五圖はパームグリップを裏側から寫したものである。此握り方は手のひらで握つて居る。是はフィンガーグリップ (Finger grip) (大部分指で握るもの) と比べて斯く言ふのである。手のひら深く握つて居るから隨て第六圖の如く指をかさねオーバーラップ over lap) なる。

第六圖の握り方は最も普通な握り方であつて、寫真を見ても如何にも自



— 5 —

パームグリップ

— 赤星四郎君 —



— 6 —

ヴィンシェーブ・オーバーラップ・グリップ

— 赤星四郎君 —

然で窮屈な所がない。

第五圖はヴェンシェーパオーバークラップの裏面を寫したものである。オーバークラップと云ふ意味は右手の小指を左手の人差指の上に重ねるからである。場合に依つてはモウ一本右手の薬指を左手の人差指の上に重ねることもある。

第八圖に示す通り右手の小指と左手の人差指を組合せる。表面から見ると普通のヴェンシェーパークラップと同じことである。一般にオーバークラップ・グリップの方が用ひられて居る。インターロックで初めからやつて居る人は極く稀れである。併し何れを選ぶも其人の手の形其他から、握り宜い方のグリップを用ふれば宜しい。赤星四郎君、同六郎君並に安田、淺見は普通のオーバークラップ・グリップを用ひて居る。關西のプロヘシヨナル宮本はインターロック・グリップ(第十圖)を用ひて居る。

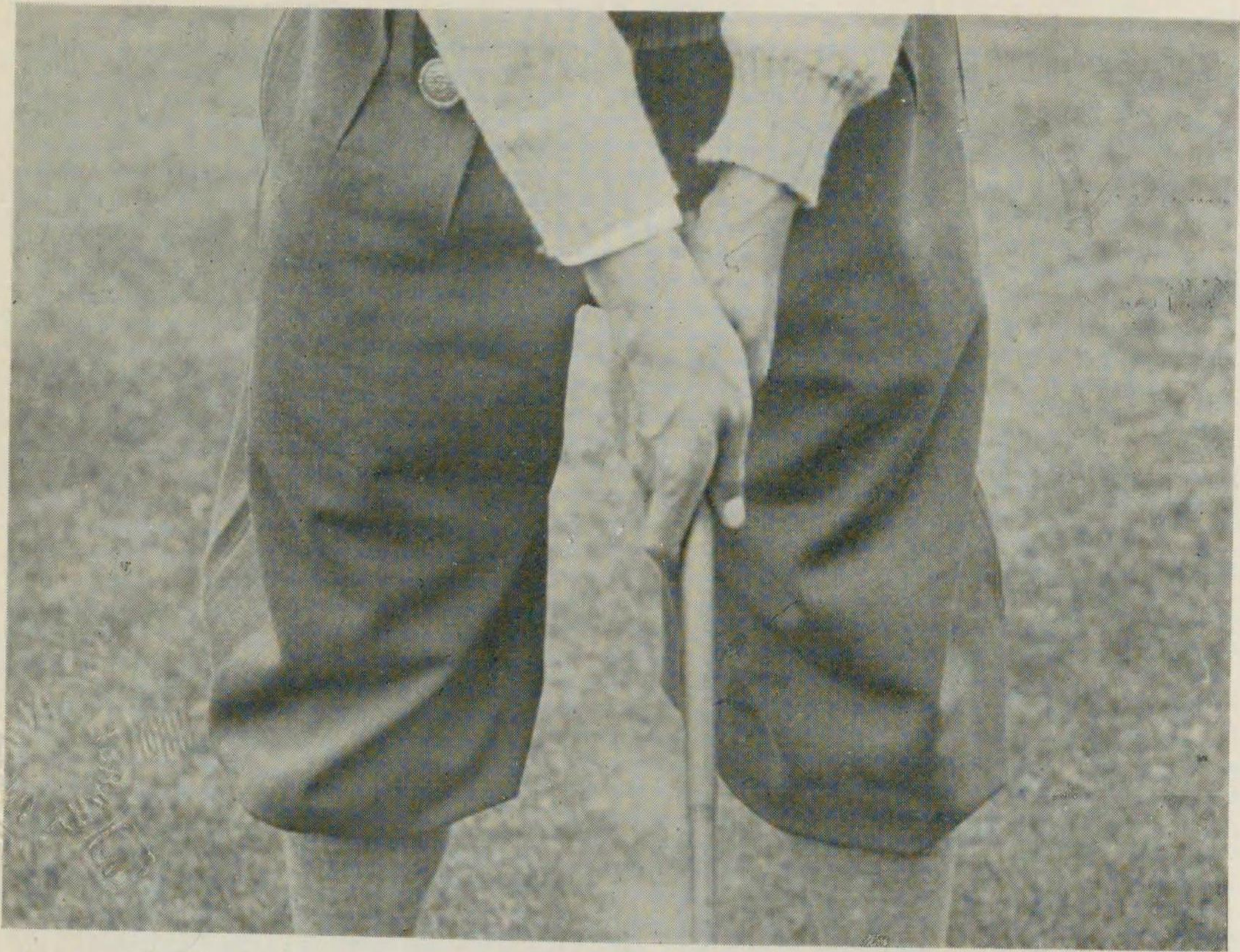
第七圖は間違つた握り方である。右の手がかぶさり過ぎて居る、一寸見ても非常に窮屈さうである。

第九圖は右の手が開き過ぎて、左の手もかぶさり過ぎて居る、如何にも不自然である。ゴルフの球を打つと云ふよりかハンマーで杭でも打ちさうな恰好ではないか。

第七圖、第九圖のやうな間違つたグリップで稽古すると、球が能く飛ばないのみならず色々な故障が起る、例へば球がプールしたり、スライスする様な悪い結果が出て来る、どうしても斯う云ふやうな間違つたグリップは初めから直して掛らないと、癖が付くと中々直らないものである。

(二) バツテング (Putting)

グリーンに球が乗つてからバターで球を轉がすことをバツテングと云ふ。グリーンにのるまでは、ドライバーか其外のクラブで力いっぱい打



— 7 —

誤れるグリップ

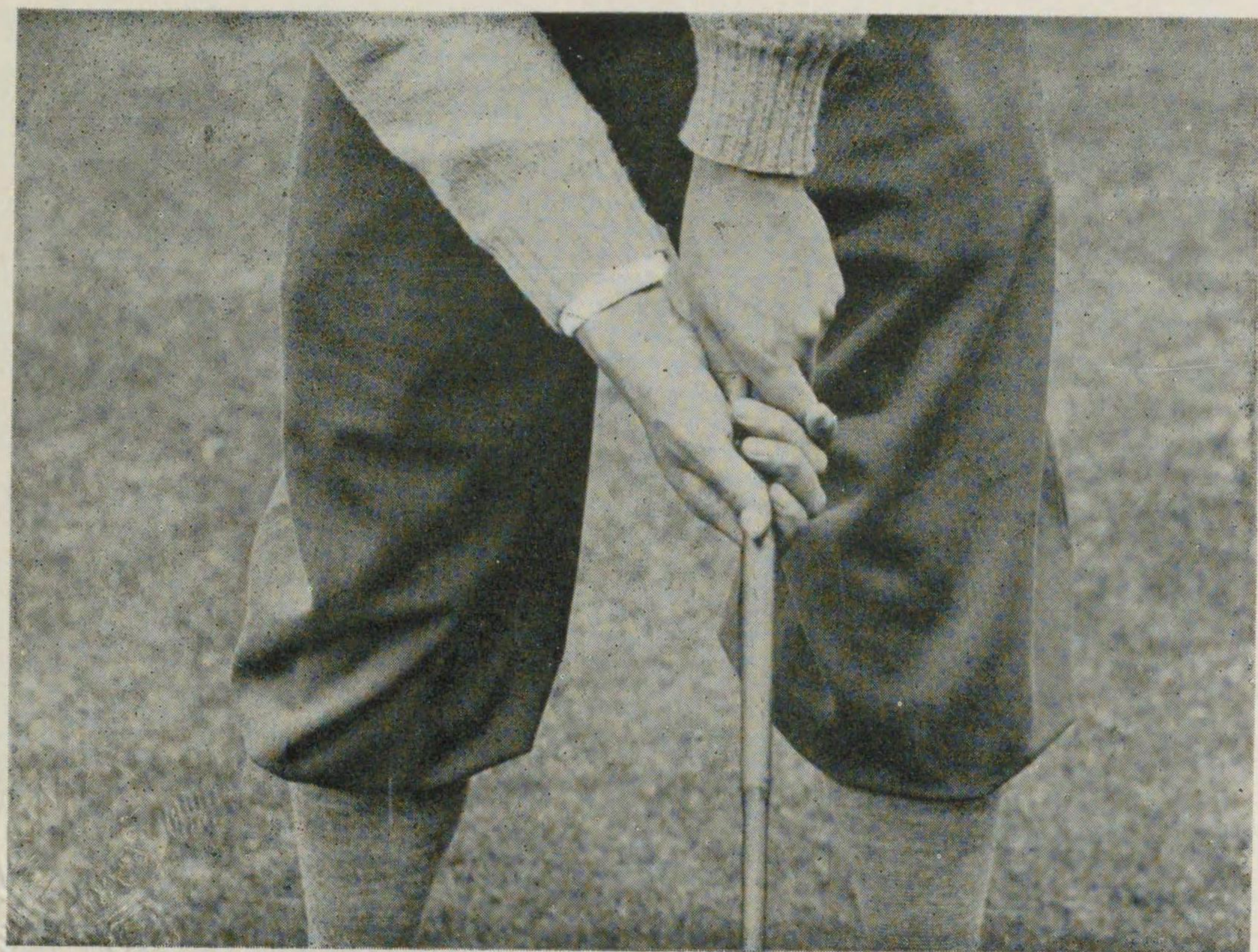
— 赤星四郎君 —



— 8 —

オーバーラップ・グリップ

— 赤星四郎君 —



— 9 —

誤れるグリップ

— 赤星四郎君 —



— 10 —

インターロック・グリップ

— 赤星四郎君 —

ち進むが、グリーンの上のバッティングは、其烈しさと比べて如何にも静かな
氣持のするものである。併しスコアに影響することは非常に大きい。例
へば四百碼以上の長いコースは二つでのつても、三バットかゝればスコア
は五になる。三でのつても、一バットでやればスコアは四になる。即ち試
合をして居る時は、或場合にはグリーンにのる迄と、バッティングとで全く勝
敗が逆轉する事がある。それ程ゴルフのゲームとしてはバッティングは重
要なもので、ゴルフを知らぬ人が見たらば非常に簡単なやうに思へるが、ゴ
ルフのゲームとしては技術も難しいが、餘りに静かなプレーでありながら
勝負の上の結果が恐しい爲めに、メンタル・サイド (Mental side) のツレーニン
グが非常に必要なのである。バッティングも前にグリップの所で述べた通
り握り方が先づ第一に大切なのである。バッティングのグリップはパッチ
ングをする時の身體の構へ方が、人々に依つて非常に違ふ爲めに、グリップ

の仕方でも随て變つた形になる。併し根本の理論に適はぬやうなグリップは初めから直して掛らなければならぬ。パッチングのグリップは極く大別すると二種類ある。

第十一圖は右の手を左の手にオーバーラップする型である。

此型は古い型である。僕はハンディキャップはやつとシングルであるが、パットで持つて居ると言はれて居る。妙にパットだけは上手なのである。それに付いて少しく述べて見たい。第十二圖に於て見らるゝ通り球の上にかぶさりかゝつて妙な恰好である。僕は非常に不器用な男であるのに、どうしてパットが人より優れてるか理由がはつきり自覺できぬが、自分で顧みて、多少斯う云ふことが原因ではないかと思ふ點もある。それは前に述べた如く、僕はフルショットが非常に下手であつた。其爲にどうしてもグリーンにのつてから、パットの數を減すより外に勝負に勝つ方法がなか



— 11 —

パッチング・アドレス

右の手を左の手にオーバーラップする型である

— 著 者 —



— 12 —

アプローチ・パットのフィニッシュ

— 赤星四郎君 —

つた。それでバッティングだけはゴルフを始めてから間もなく、英吉利の古いプロフェシヨナルのジャック・ホワイト (Jack White) のバッティングと云ふ小冊子を手に入れて、其本と首引で、練習を始め、殆ど誰の教へも乞はずに、其本に書いてある事を、自分で勝手に解釋をしてやつて見た。勿論ジャック・ホワイトのプレーはまだ見ないのである。それであるから僕のバッティングがジャック・ホワイトのそれとは違ふであらう。其練習の仕方は丁度第七圖にある位の距離、二或は三クラブ・レングスのバッティングをするのに、球を打つてから六吋以上クラブ・ヘッドを先に出すなと書いてある。其通りに練習をした。今から考へて見ると、球をヒットするバッティングを極力練習したものである。それで自分の感じ (Feel) をつくつた。其後赤星六郎君が歸つて来て、僕の型を見て、如何にも見苦しい、不細工な恰好であると批評した。そこで著者は、それならば僕にも他の人に教へて居るやうなバッチ

ングを教へて呉れ、其型に變へるから」とて教を乞うたのに答へて「君のバツトは能く這入るのだから變へる必要がない。其代り一種特別のバツチングだから、決して人に教へてはならぬ」と禁せられてしまつた。斯う云ふ風にバツチングを教へる事を六郎君から禁じられたのは、僕の外にもう一人ある。之も矢張り駒澤で、兼ねてからバツチングの第一人者と言はれ、今は紐育でメトロポリタン (metropolitan) ハンディキャップ (handicap) 六になつて居る首藤君である。

首藤君のバツチングは球をカットする癖がある。面白い事には首藤君が駒澤に居た頃、練習グリーンで首藤君が或初心者を捉えて、頻りにバツチングを教へて居たことがある。それを六郎君と僕が見て居つて、とうとうしまひに堪らなくなつて、吹出したことがある。首藤君は其初心者に「決して球をカットしてはいかぬ」と注意してゐた。其初心者は非常に球をカツ

トする癖があつたので、それを直す積りで諄くそれを教へて居つた。併し首藤君がバッターを取つて、球を打つと明かにカットして居る。教つて居る人は、それを一生懸命に見て、又打つ、併し矢張り首藤君のする通りにするからカットするのである。併し首藤君は頻りに「所謂ボビー・ジョンズの言ふホロー・スルーで素直に打て」と教へてゐた。そこでとうとう六郎君は首藤君に抗議を申込んで、教へる事をやめさせたことがある。

斯う云ふ風にバツチングは非常にデリケートなものであるから、自分の癖は中々分らないものである。首藤君のバツチングを見て居ると、其カットする所に言ふに言はれないタッチがあるのである。其カットも普通の人ならばカットは絶対に悪いのであるが、首藤君は其カットする瞬間のデリケートのタッチで以て、何時も球を穴に入れて居るのである。自身自身はそれを自覺してゐない。是は練習の結果であるか或は生れながら

にして、さう云ふタッチを持つて居るのであるか分らない。何時でもさう云ふ人を批評するのに、あれはボーン・パター(生れ付きのパター)だと云ふが、矢張り何か或時期に、或タッチを捉えやうとして練習した結果ではないかと思はれる。著者には前に述べたやうな練習をした時があつた。是は全くパットを練習しやうとか何とか計画的にやつたものではない。唯初心の時分に偶々ジャック・ホワイトの小冊子が手に這入つたから、唯其通りにやつて見やうと云ふだけの事であつた。併し其結果は生れ付きのやうになつてしまつたのである。

六郎君から僕は、君は君のバッティングの型やら打ち方を變へてはいかぬ』と言はれたが、皆がボビー・ジョンズ式にしつかり立上つてホロー・スルー(是は次に説明する)の付いたスキングで打つ新式のを六郎君から教はるので、僕もやつて見たくなつて時々試みたが結果が悪い。それで型だけは又元

の型に戻し、さうしてグリップも元の通りであるが、打ち方の感じがホロー・スルーを附けて、スムーズに打つて居る積りでやりだした所が、非常に結果が悪くなつて来て、バッティングの数が非常に殖えて来た。さうして何とも纏りが付かなくなつてしまつた。實は此事は六郎君に内密でやつて除けた事であるが、おしまひには全く元の型に戻し、元のグリップに歸り、打ち方も元に歸つた積りであつたがどうしても結果が悪い。

それで六郎君に萬事を打明けて話をした所が、僕のバッティングを見て「全然前のタッチがなくなつた、なせ元のやうに球をヒットせぬか」と言はれて初めて前の感じを思ひ出した。其時に成程六郎君は名人であると言ふことをつくづく感じたのである。又其時六郎君は僕に向つて「君のバッティングは、全く手のひらの感じでヒットして居るのであつて、非常に妙な所から感じを出して来て居る。是は人に君が教へやうとしても教へることが出



— 13 —

ボビー式 グリップの新型 パッチング

— 赤星四郎君 —

来ぬであらう。其代り君が新式のホロー・スルーの附いたパッチングをや
らうとしても、急には覺える事も出来ないし、今迄努力の結果築き上げた程
度に、新らしい型で持つて行くことは到底不可能であらう」と云ふ批評をさ
れたが、パッチングと云ふものは、それ程一種獨特の味を持つたゴルフ技術
の一部分である。其後僕は全く古い型に歸つて依然として、僕獨特のパッ
チングを樂んで居る。パットが悪くなると又元のジャック・ホワイトの小冊
子の事を思ひ出して、其練習を繰返して居る。僕の考ではパッチングは、自
分獨特の型を定めたらば、それを根氣良くものにするのである。勿論ど
んな型でも或基礎となる理論だけは無視することは出来ないと思ふ。併
し前に述べた首藤君の場合のやうに、他の人には非常な害のあるものがあ
つても、それが却て其人の特長であると云ふ場合もある。

赤星四郎君のグリップは僕のとは全然異つて居る。右手でクラブを握

り其上に左手を被せて居る。

此グリップは世界の名手ボビー・ジョンズも此握り方である。赤星四郎君の言はれる所に依ると、此打方は成べく腕を動かさずに手首の動きで球を打つ。クラブをバックスキングする時でも、極く緩かに上げ、いつ球を打つたともなく大時計の振子の様なスウキグで打抜くのである。所謂ホロ・スルーで打つので、著者のやうに球をヒットする打方とは全然違ふ。此グリップの握り加減と手首の非常にデリケートなタッチで第一三圖の様なフィニッシュでホールアウトした時の氣持は何とも言へないと四郎君は言つてゐる。四郎君はあれだけの選手でありながら、二三年前までは、バッティングは寧ろ君の弱點であつた。併し今日では此バッティングの所謂腕の動きを止めて、手首の所の非常にデリケートなタッチを得てから、グリーンへ球が乗つてからのプレーに非常に興味が出たと言てる。取りも直さず

今ではバッティングは四郎君のプレーの中での強い部分となつたのである。四郎君のバッティングに付て僕との間に面白い語り草がある。三四年前の或夏の夜、四郎君が僕の家へ訪ねて來られ、暑さ凌ぎにゴルフの話を始めた。其時分に恰度僕はドライブが當らなくて苦しみ抜いて居た時であつた。四郎君は「ドライブみたいなのやさしいものが何故當らぬのか、球をテイクアップして置いて、横から擲ればそれで宜い。テイクアップした球の所をドライバーのヘッドを一尺位の間、球の飛んで行く方向へ眞直ぐ通せば宜いではないか。そんなやさしい事がどうして出来ないのか」と言つた。恰度其時分四郎君はバットが左右に流れたり、ショートしたり、オーヴァーしたり非常に困つて居られる時分で、そのドライブの話で急に僕が思付いたことを四郎君に話した。「僕の考ではバット見たやうなやさしいものはないと思ふ。球を打たうと思ふ方向に直角にクラブヘッドのフェースを

置き、クラブヘッドを球の直径だけ、球を打つ方向へ直角に動かせば宜い。残は強さだけの問題である」と云ふ話をした事がある。所が其翌日四郎君は程ヶ谷に行かれてバッティングの成績が非常に宜かつた。十八ホールス二十八バットで廻つた。即ちバットの數二つ平均と算へると、十八ホールスで三十六である。二十八バットと云ふ事は少くとも一バットが八つあつた事である。當時の四郎君としては非常なるバットの成績であつた。其夏の夜の話は子供の言合ひ見たやうな事であつたが、結果は非常に面白い事になつた。併し四郎君の言つたドライブの話も著者の言つたバットの話も言葉の上では非常に簡單であるが、實際は兩方共物事が簡單なだけに、却つてやつて見ると中々會得し難いものである。ドライブの事は後に述べるが、今のバッティングの球の直径だけクラブヘッドを眞直ぐに動かす練習をやつて見給へ、中々思つた通りにクラブヘッドが動かぬものであ

る。或は内側から外側に押出したり、外側から内側に引入れたりして球の直径だけでもクラブヘッドが思ふやうには通らぬものである。クラブヘッドが右往左往に動く原因はバターの罪ではない。事の起りは手の中にある。先づ第一にグリップを直して見ねばならぬ。腕の動きを考へねばならない。實際に球の直径だけ自分の思ふ通りにクラブヘッドが真直ぐ動くやうになれば大したものである。今述べた三四年前の四郎君の場合は、グリップ其他型は十分に出来て居つたので、唯メンタルにちざんでたものらしい。それであるから何か一つガッチリ捉える所が出来たら、型は出来て居つたのであるから直ぐ良くなつたものと思ふ。

初心者に今述べたやうな注意をして、直ぐ翌日からバットが上手になるとは期待しない。併し僕の言ふ球の直径だけクラブヘッドを狂はせずに通す練習はパッチングの根本であると思ふのである。パッチングで一番

大切なのは、能く球を見て居ることが絶対的の條件である。此練習は室内でカーペットの上でもやれるから是非試みられたい。

倅て又第十二圖に返つて説明をする。赤星四郎君が打つた球は將にホールに這入らんとして居る。クラブヘッドは真直ぐ穴の方向にホロー・スルーを附けてフィニッシュされて居る。さうして赤星君の眼はまだ球の居なくなつた芝生の上を凝視して居るやうに見える。即ち球を非常に能く見詰めて打つた瞬間の形である。ホールアウトしたかどうかは、ボールがホールの中の金具に當つた音で判断してゐるやうに見えるではないか。もう一つ注意して見て貰ひたいのは赤星君の腰の動きである。此形のグリップでホロー・スルーを附けて打つ場合には相當に短い距離でも、身體全體のムーブメントが這入ると云ふ事を、ボビー・ジョンズ (Down the fair-way) で讀んだ事がある。此圖のフィニッシュを見ると、ボビー・ジョンズの言葉が

思出される氣持ちがするのである。

又第十三圖を見ると、是は相當に距離が長いので、尙ほ其感じが深いのである。右の足の脛が可なり前に進みピボットも這入つて居ると云ふ感じが出て居るではないか。さうしてクラブヘッドは綺麗に穴の方向にフィニッシュされて居る。

第十五圖の僕のアプローチパットの恰好を見給へ、矢張り僕のはこれもパットなのであるが、フィニッシュには見らるゝ通りのホロー・スルーを付けて居る。右の足の動きから相當にピボットが這入つて居ると云ふ事も感じられるであらう。

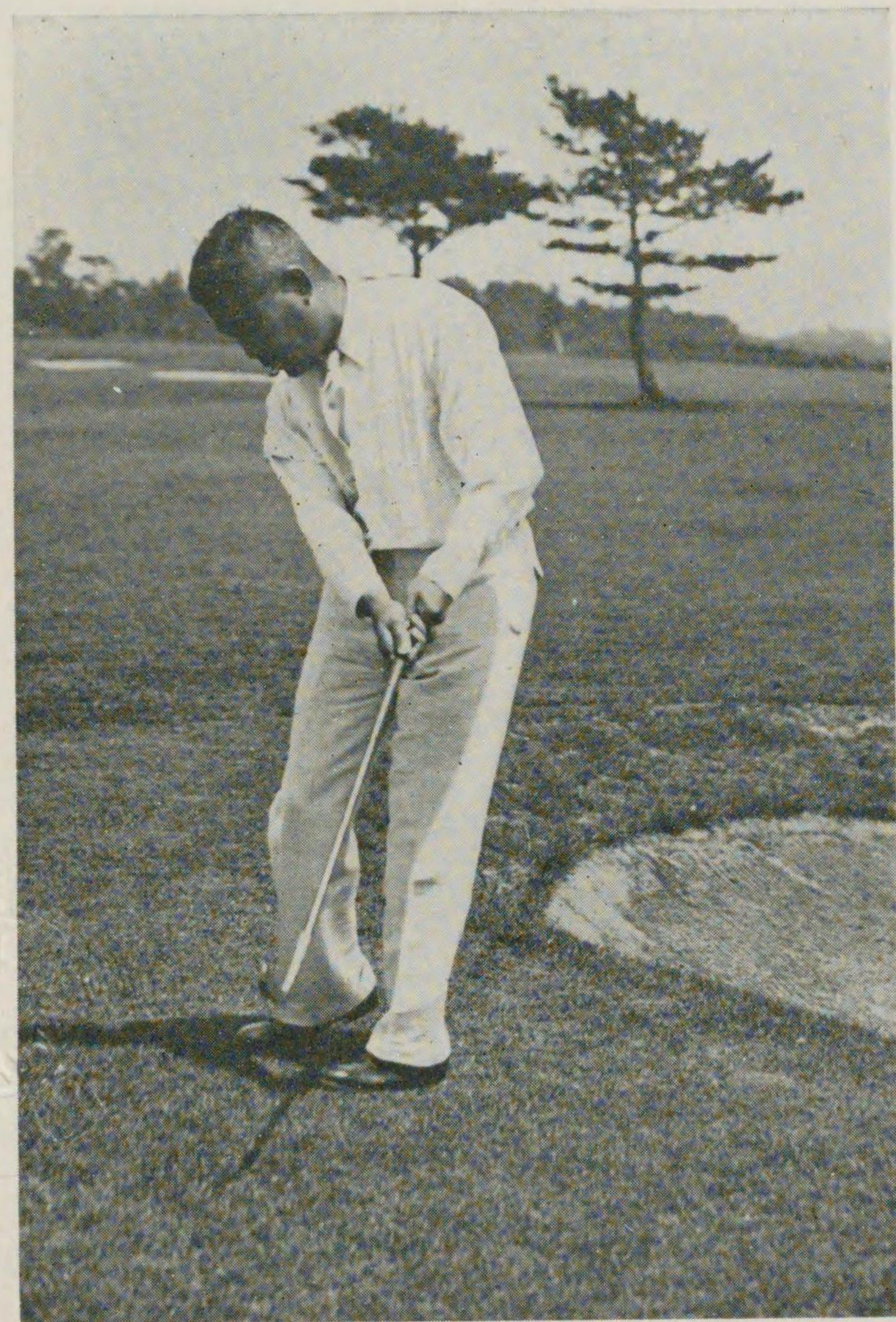
第十四圖此バックスピングでも腕の動きは、さう大きくなり矢張り手首の動きで、クラブを引上げて居る。それから球を如何にも能く見て居るではないか。



— 14 —

バッチングのフィニッシュ

— Bobby Jones —



— 15 —

アプローチ パットのフィニッシュ

— 著 者 —



— 16 —

パッチングの新型グリップ

バック・スキング

— 安 田 —



— 17 —

アプローチ パットのフィニッシュ

— 安 田 —

十三圖十五圖と十六圖とを比べて見給へ。相當に多くホロー・スルーを附けて居る。唯第十三圖及び第十五圖にはクラブ・ヘッドの先がホルの方へ向いて居るが第十六圖の安田のは割にクラブ・ヘッドの先が開いてホルの方に向いて居ない。是は人々の癖であつて、多少の相違はある。パットの上手とは何が標準となるか。パッチングは力業でないから初心者でも偶然非常な好成绩が出る事がある。併し偶に非常に良い成績が出てもムラに出るので、其人のパッチングにきまり所がないのであつて上手とは言へない。それよりも常に確かさのある事が必要である。六郎君も時折飛び離れたパットの成績を擧げて自慢して居る人があるが、それは自分がパットの下手である事を裏書きしてゐる様なものである。パットを練習して行くのにはステディーに、何時も平均して次第に良くなる様に持つて行かなければならない」と。僕は其事を聽いてからパットの數の

レコードを取つて見た。ゴルフを始めて間もなく、前にも述べた通りジャック・ホワイトの本と首ツ引でやつた時分から、時折は非常な成績を挙げた事があつた。併し三年ばかり前からパットの数のレコードを自分で取つて見て、一番良いシーズンには平均を三十四パット、十八ホールに置いて、之よりも多い場合は不成績として、特に練習することにした。さうして持つて行くと、先づ三十四マキシマム、良い時は三十を下に切るやうになつた。

此方法は非常に僕のパットの確かさを作つて呉れた。パットの下手な人は頻りにバターを取替えて見るものである。どのクラブでも新しいクラブをバックに入れたらば、それをコントロールする迄に相當の時日を要するものである。併しバターは一見その虞れがないやうに見えて却てそれが外のクラブよりも多いのではないかと思ふ。人のバターを借りてプレーしても左程變つた事はないが、イザと云ふ時に矢張り使ひ馴れたバタ

ーでないとは打難いものである。人に依ると、バターを數本持つて、少し這入らなくなると、直ぐロツカー・ルームに歸つて、バターを取替えて來る人がある。其人の型に合つたバターが手に這入つたならば、それを馴らして何年でも變えない方が得である。

(三) 水の溜つたグリーンでの打ち方

一九三一のジャパン・アマチュア・チャンピオンシップが茨木で催された。其當日非常な暴風雨で、どのグリーンも少し凹い所には水が溜つて、穴の周圍にも無論水の溜つた所が多かつた。勿論是等のカジアル・オーターは總則に依つて、球を動かしてさけることが出来るのであるが、其日には皆が非常にパットの数が餘計かゝつた。其爲全體のスコアが例年に比して、三十六ホールで二十ストロークも悪くなつた。此事を東京に歸てから六郎君に話した所が「幾らグリーンに水があるにしても、餘りにスコアが悪

過ぎるではないか、君は其グリーンでアプローチ・パットを何のクラブで打つたか」と質問された。それで「皆グリーンに乗つたらば矢張り平常の通りパターで打つた」と答へた。所が六郎君は「それであるから皆のスコアがあんなに悪かつたのである。其様にグリーンに水の溜つた場合には、アプローチ・パットはマッシーで打つべきものである。ヒタ／＼に溜つた水位は、打勝つて行つて穴の近邊にある水の所へ行くと、必ず球が留るのであるから、マッシーで相當強めに打つと、案外グリーンに乗つてからストロークが多くならないのである。ツーパーツ・シュワー(two put sure)又は場合に依つては、遠くから穴に這入る場合がある」。

(四) 術言「テクニツク」

是からドライブ、アイヨン等のフルショットの説明をするに付て、間違ひを避ける爲に是等のショットに附随するテクニツクの説明をして置く。

(a) ライン・オブ・フライト Line of flight (球の飛ぶ方向の線)

Bを球とするとA Bは球を打つ方向である。隨て球の飛ぶ方向はA B Cである。

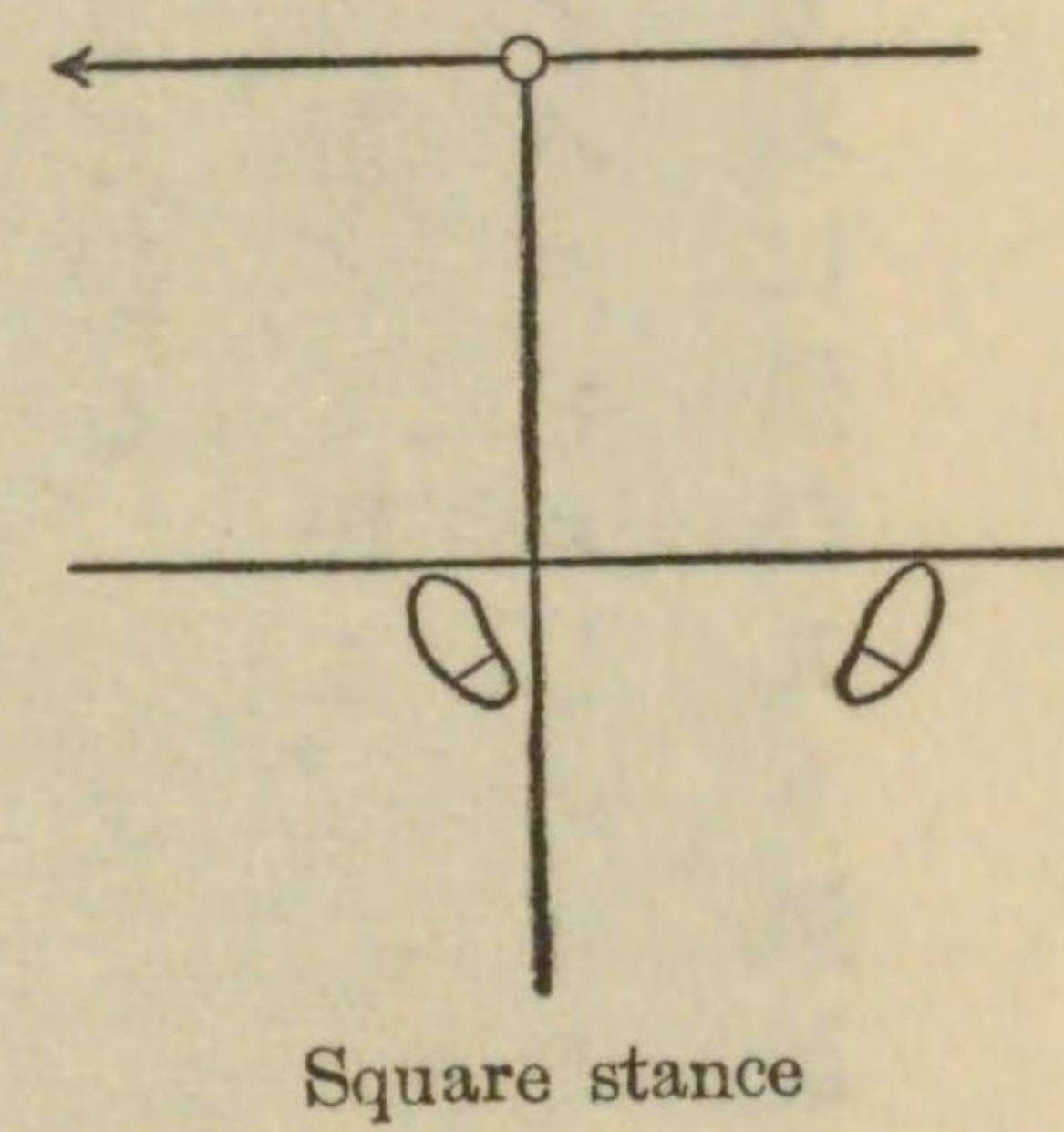
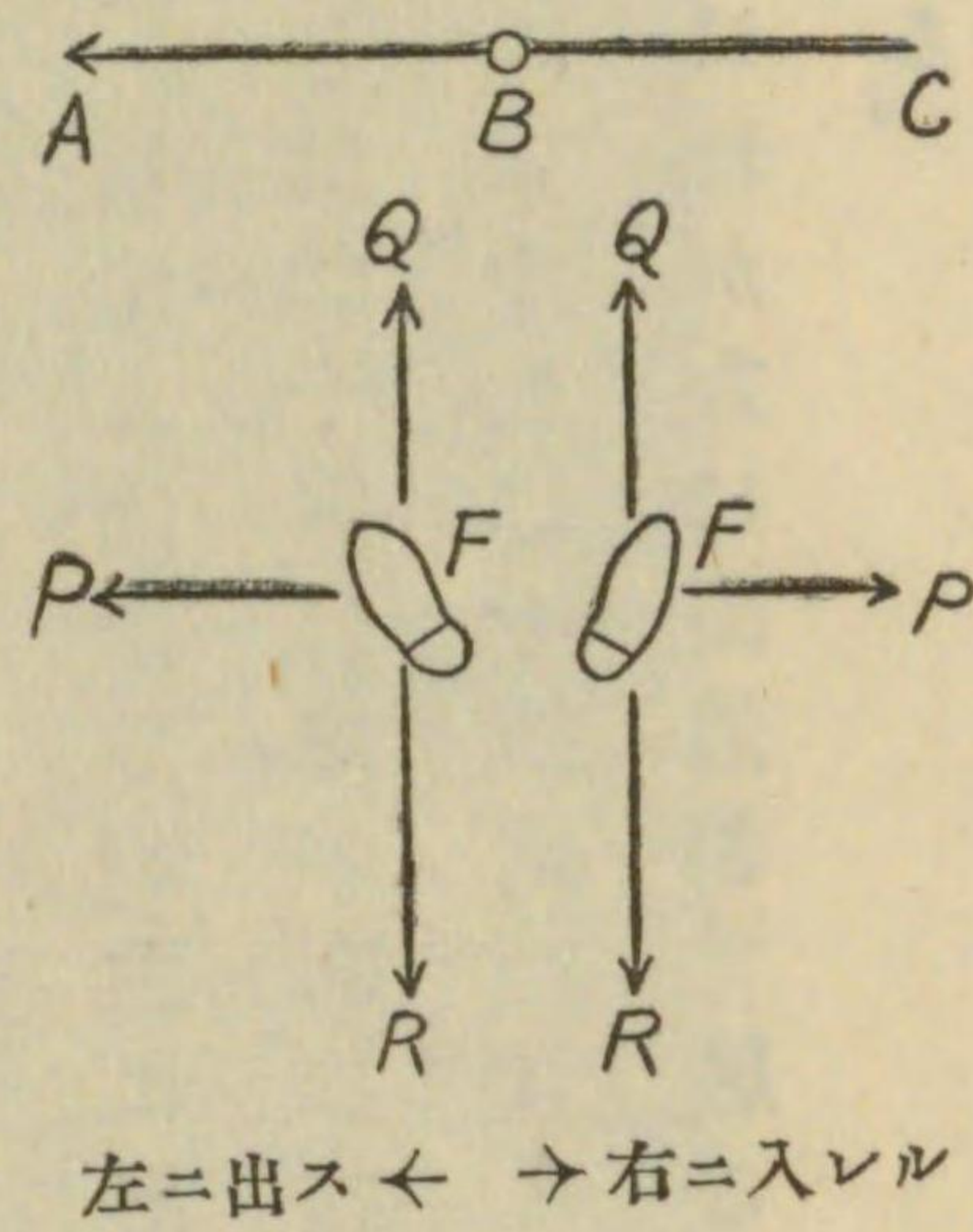
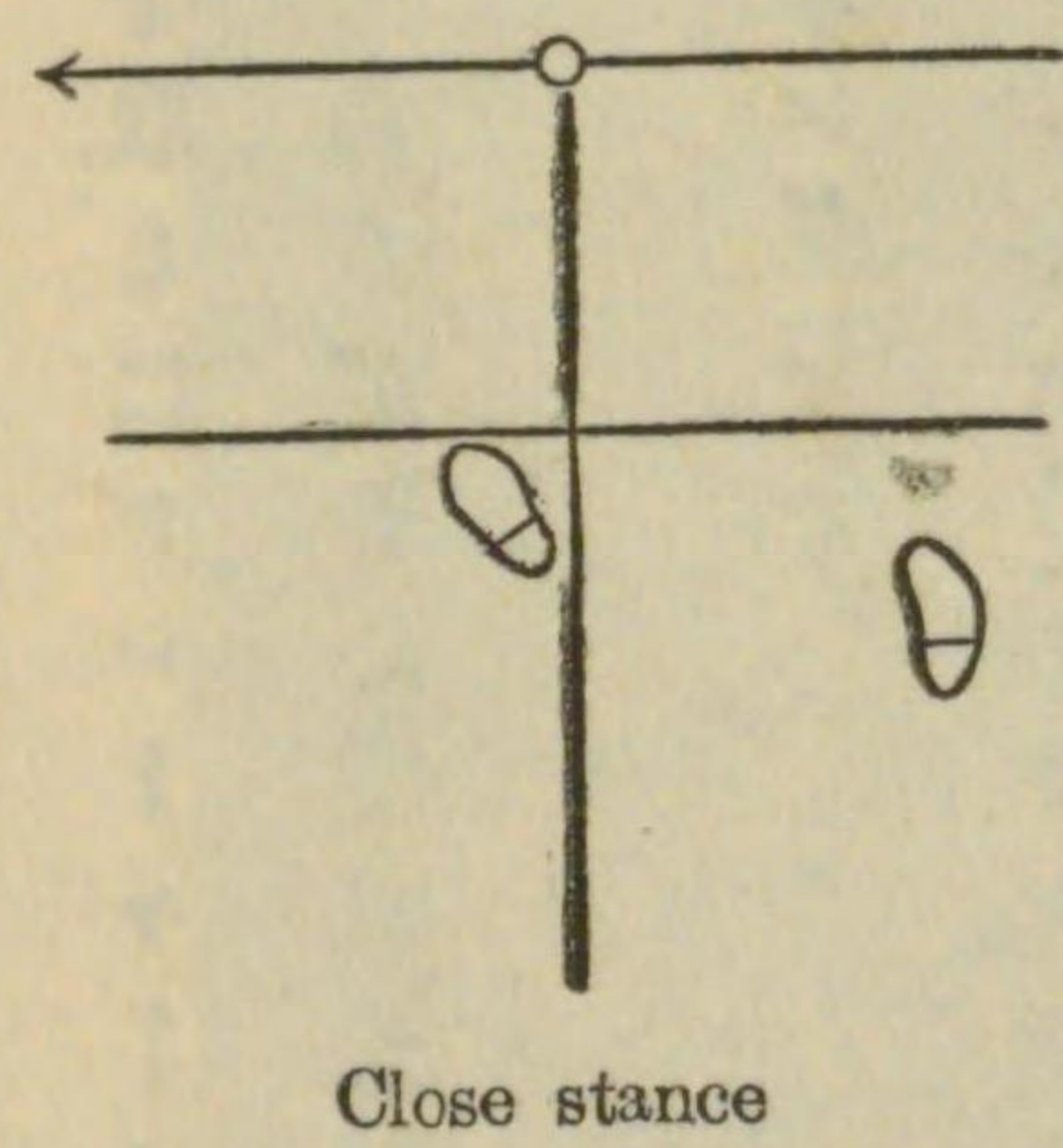
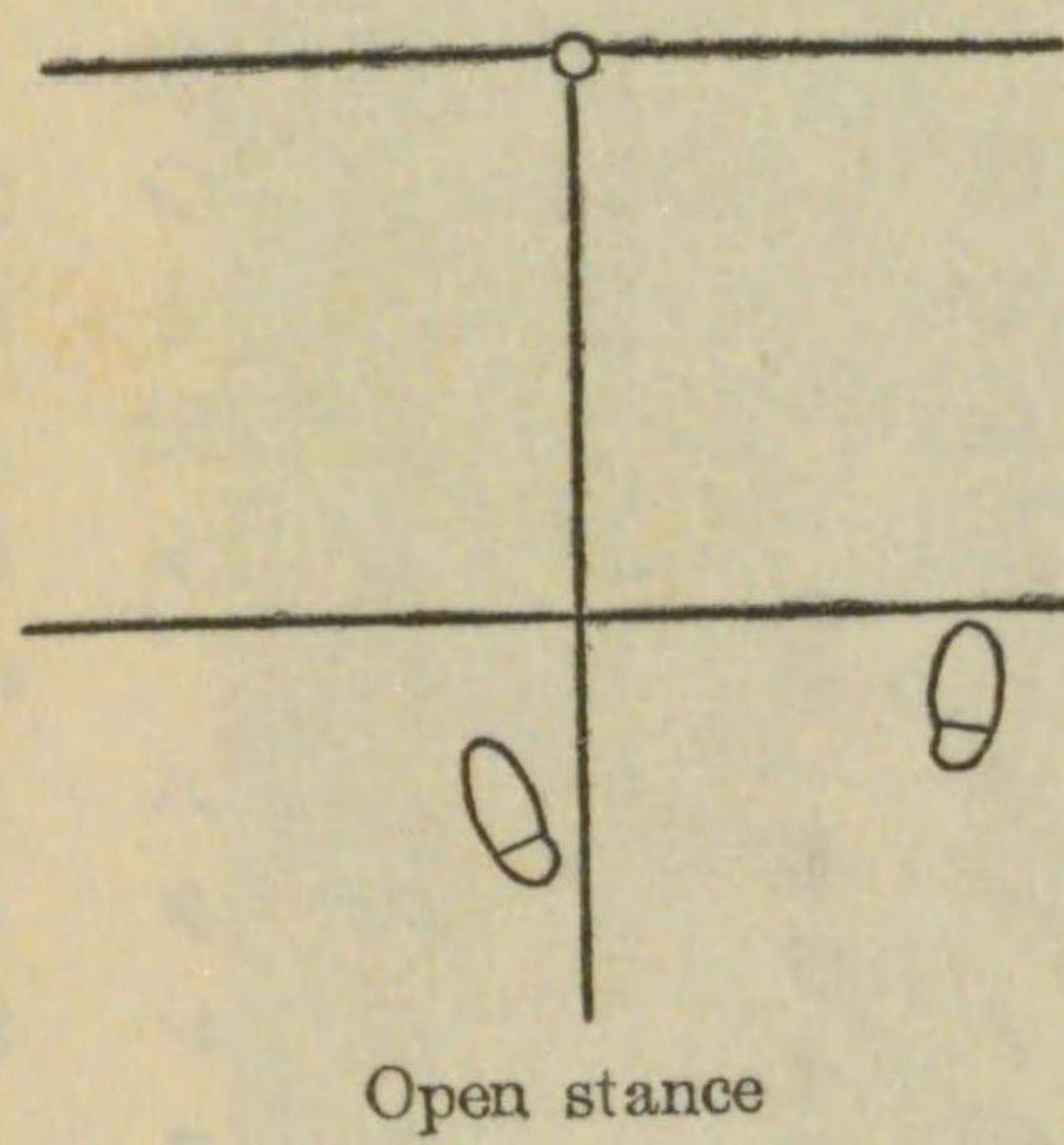
(b) ラテラル・ムーヴメント Lateral movement (球の飛ぶ方向に並行な體の動き)

圖に於てF Pの方向の動きがそれである、Fは足を示す。

(c) ホワーワード・バツグワード・ムーヴメント Forward, Backward Movement (前方又は後方への動き)

是は球の飛ぶ方向の線へ向ふのと、それと反對の方向への身體の動きを云ふのである。

圖に於てF Qはホワーワード・ムーヴメントを示し、F Rはバツクワード・ムーヴメントを示す。



球とスタンスの関係
 で、Bに球を置いたとす
 ると、それよりもAの方
 向に球を動かして置く
 ことを球を左に出すと
 云ひ、一旦Bに置いた球
 を、Cの方へ動かして置く
 時に右に入れると云ふ。
 それからA Bのラインよ
 りスタンスをホワーワー
 ドに、即ちA Cの線に近く
 動すことを球に近く立つ

(d) オープンフェース、シャットフェース Open face, Shut face
 オープンフェースとはクラブヘッドを自然に其儘上げて行くのである。
 之に反してシャットフェースは左の手首を捻つて、クラブの面を伏せ氣味
 にするのである。

(e) ウィズ Width (スウィングの幅)

是はバックスキングで、手を身體より遠くへ振上げる。即ちスキングの
 大きい事。其プレーヤーはウィズがあると云ふのは、スキングが大きいと
 云ふことである。之に反してスキングが小さければそれはナロースキン
 グ (Narrow Swing) と云ふのである。

(f) スタンス Stance

スタンスに三種ある。即ちスクエヤースタンス (Square) とオープンスタ
 ンス (Open) とクロススタンス (Close) である。

と云ひ、A Cのラインよりバックワードにスタンスを取る事を球より遠く立つと云ふ。スタンスを取るにプレーヤーに依つては此圖の位置よりも多少球を右に入れる人もあるが、初心者は先づ此の球の位置で練習をすれば間違ひがない。

(五) ドライウイング Driving

第十八圖はノルマル・スクエヤー・スタンスである。是は球の位置でオープンにもクロスにも取つて宜いのである。

第十九圖は球が左に出過ぎて居る。

第二十圖は球が右に這入り過ぎて居る。

第十九、二十兩圖はオープンスタンスと、クロススタンスを示すと同時に、球が左に出過ぎて居ると、右に這ひ入り過ぎて居るのを示したのである。



— 18 —

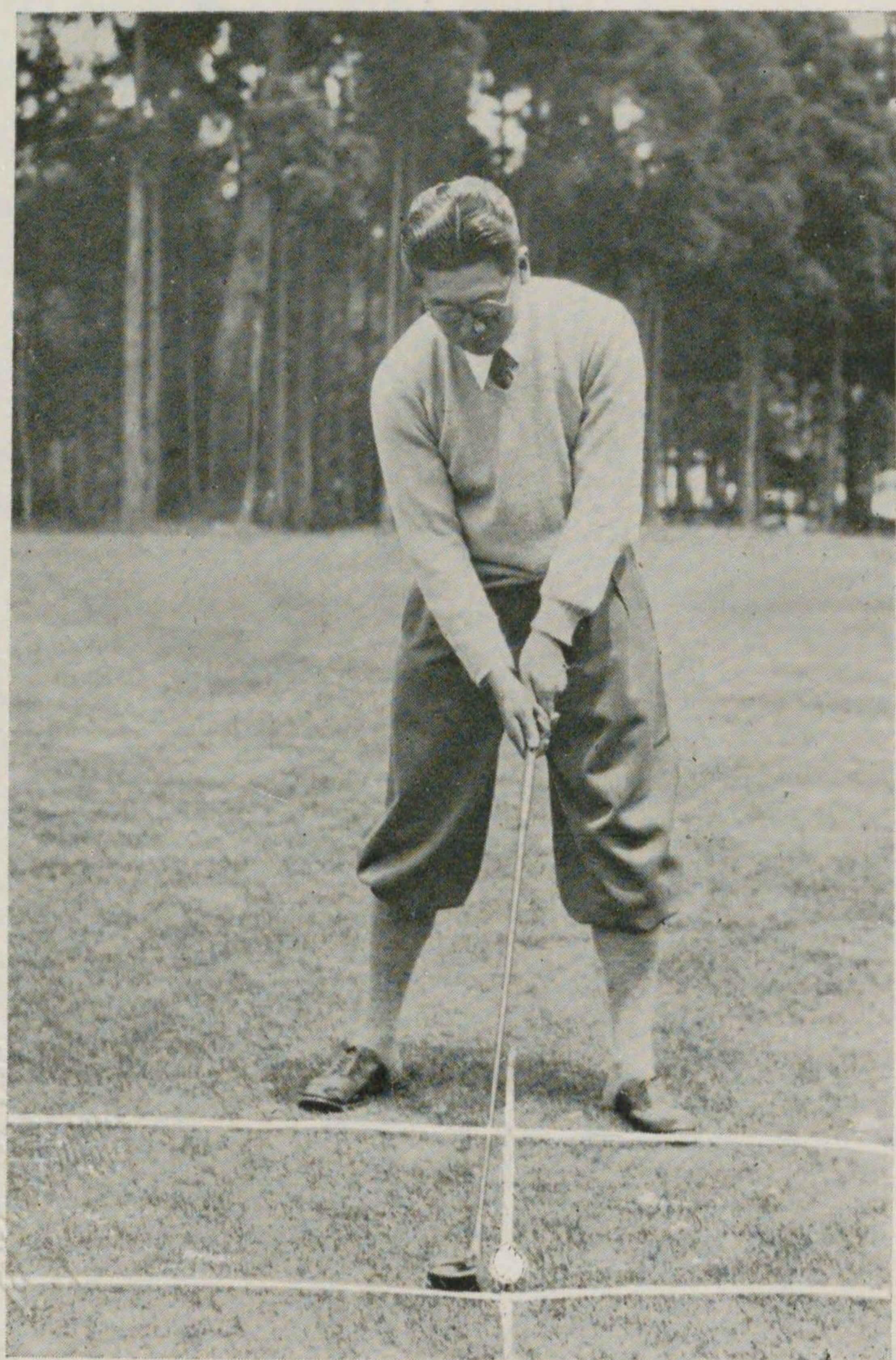
ドライビングのアドレス
(ノルマル スクエヤー・スタンス)
— 赤星四郎君 —



— 19 —

オープン・スタンスで球が左すぎる

— 赤星四郎君 —



— 20 —

クロス・スタンスで球が右に入りすぎてゐる

— 赤星四郎君 —

スタンス其ものは人に依て、どれを使つても宜い。唯便宜上球の右に這入り過ぎて居ると、左に出過ぎて居るのを組合せて示したのである。それならば此第十九圖と第二十圖のやうな形で打つた場合に、その結果はど
うなるかと云ふと、第十九圖は球がスライス (Slice) する。又第二十圖は球
がプル (Pull) する結果になる。

スライスとプル・スライスとは曲線カブで右に曲して球が逸れる事を云ひ、ブルとは同じく球が左に引掛つたやうに曲ることを云ふ。スライスに似たものにプッシュアウト (Push out) があるが、是は區別しなければならぬ。プッシュアウトは自分が打たうと思つたライン・オブ・フライトに球が飛出す時から、既に或角度を爲して右の方へ押出すことを云ふ。スライスとは全く性質の違つたミスショット (Miss-shot) である。

名人になると、計畫的に、即ち風の力を利用するとか、或は立木などの障碍

物を避けて目的の場所に球を落す爲にインテンショナル (Intentional) スライスは、又はプルを打つ事がある。其時にはインテンショナル・スライスは、大體第十九圖のやうに、其人の打つ普通の位置よりも、球を少しく左に出して打ち、又インテンショナル・プールの掛ける時には、其人の普通の球の位置よりも多少球を右に入れて打つのである。併し初心者には斯う云ふ高級なゴルフは、試みぬ方が宜い。ノルマルのスタンスであればどのスタンスでも宜いから、自分に都合の好いものを選び普通の球の位置で、球を眞直ぐ打つ事を習つた方が宜しい。

ドライバーの打方を説明する。ドライバーで球を打つ時には、球をティーアップする。

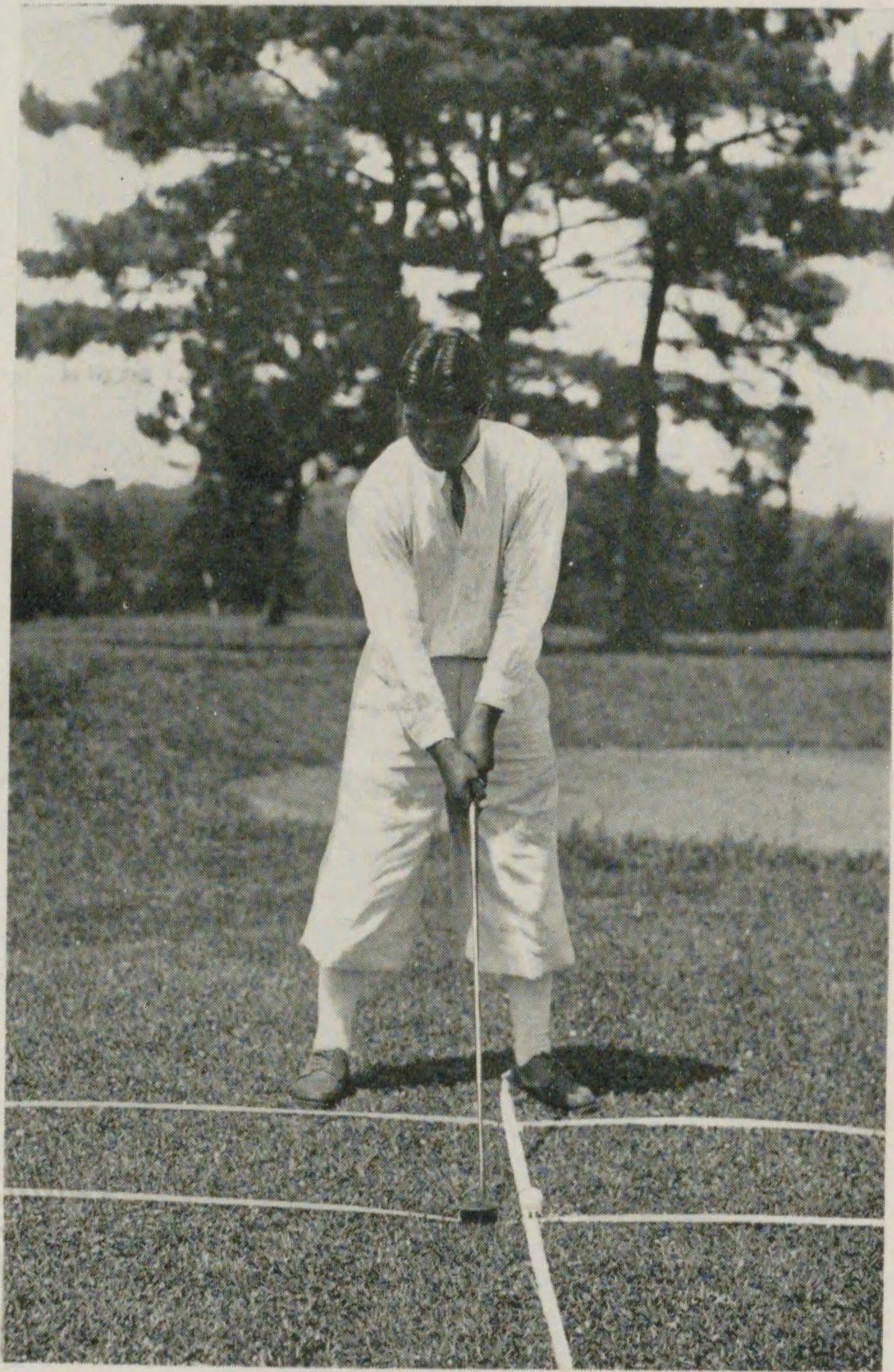
球にアドレスする時には、先づ其前にグリップを定めて静かに球に近付き、スタンスをきめて圖の如くアドレスするのである。アドレスしてから



— 21 —

ドライブのアドレス

— 安 田 —



— 22 —

ドライブのアドレス

— 浅 見 —

クラブを小さく動かす、之をワグル(Waggle)と云ふ。唯クラブを振上げるのに身體を樂にする爲にする豫備行動である。時に依ると、ワグルに悪い癖が付いてしまう事があるが、どう云ふ風にワグルするかは上手な人のやるのを能く見る必要がある。餘り數多くワグルして居る中にグリップから肩の邊が、コチ〜に固くなつてしまつて、全くワグルする目的と、反對な結果になつてしまうことがある。極端な例を言ふと、駒澤のプロフェショナル安田の如きは、殆ど球にアドレスしてからワグルせずに球を打つてしまう。此ワグルは餘程氣を付けないと、前に言つたやうな弊があるから、習ひ始めから悪い癖の付かぬやうにせなければならぬ。

球を能く見ながら肩と腰との動きで、リストはアドレスの折りと變化なく、クラブを軽く握りピポットを十分入れ得るやうに樂にクラブを持上げるのである。第二十三圖はバックスキングの始を示す。

肩も腰も十分に廻り切り、グリップの位置はオーバースキミングにならず肩より少しく高い位、左の腕は十分に伸びて肩も腰も十分に廻り込んで居る。而して眼は常に球から離れない(第二十四、二十五及二十六圖参照)此位置はバックスキミングの終りで、之から球にクラブヘッドを打込んで来るのである。

トップスキミングから前に身體を、即ち肩や腰を廻したのを元に戻して来て、而もクラブヘッドはリストよりも十分に遅れて居る。是から身體全體の力がクラブヘッドに這入るやうに、右の腰で押し左の腰を引きぬいて充分に廻り球をスキープするのである。即ち第二十七圖から第二十八圖へとうつる。此處で球を擲る氣持があつてはいかぬ。球をスキープして、クラブヘッドを充分にホロー・スルーを付けて投り出すやうな氣持で打つのである。第二十九圖三十圖及第三十一圖はフイニッシュの形である。



— 23 —

バック・スキミングの始まり

— 赤星四郎君 —



— 24 —

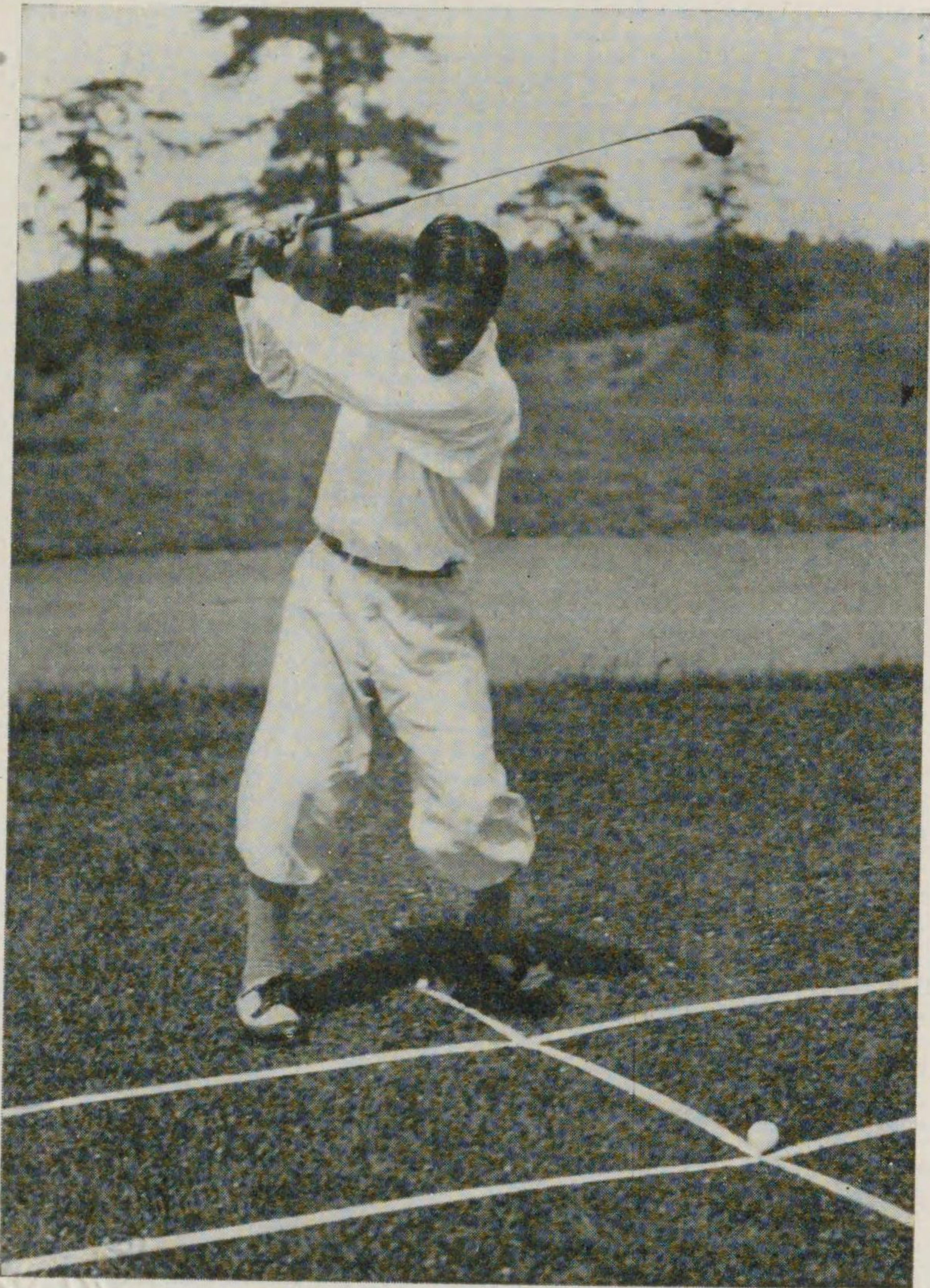
トップ・スイング
— 赤星四郎君 —



— 25 —

トツブ・スイング
— 浅 見 —





— 26 —

トップ・スキング

— 安 田 —



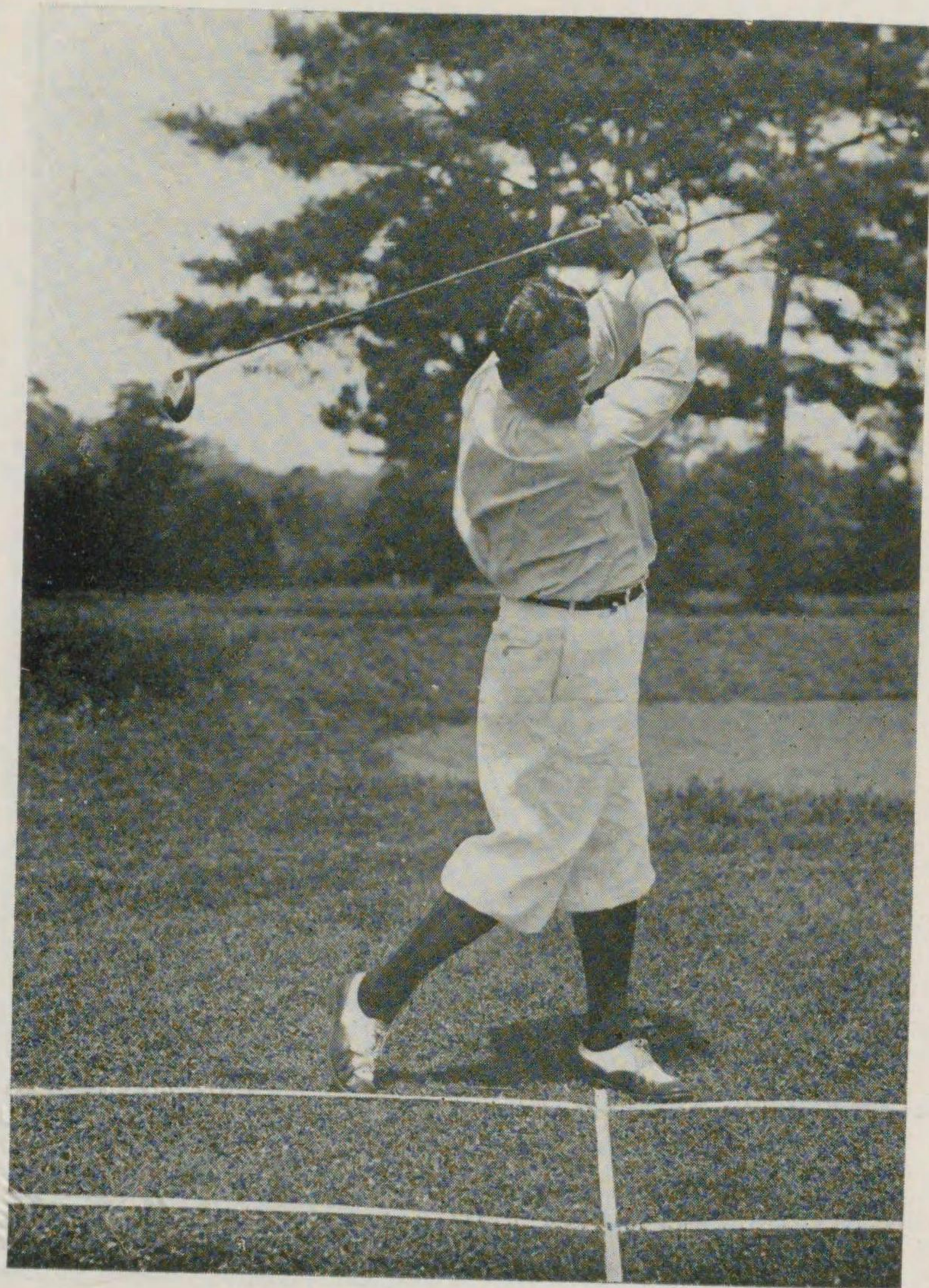
— 27 —

球に當る直前
— 赤星四郎君 —



— 28 —

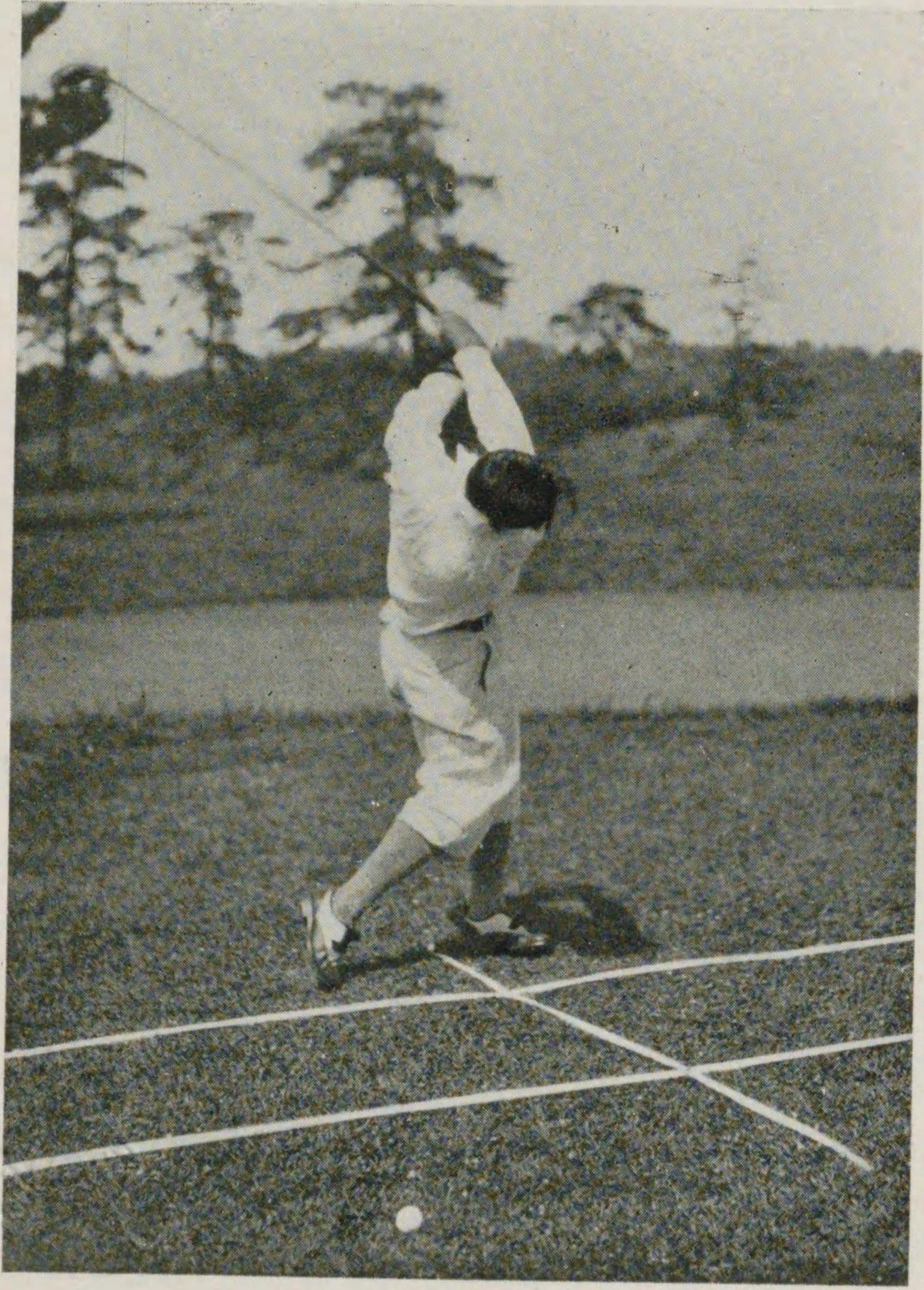
球に當つた直後
— 赤星四郎君 —



— 29 —

ホロー・スルーを付けてクラブヘッドを
投出してしまつた後の形 (1)

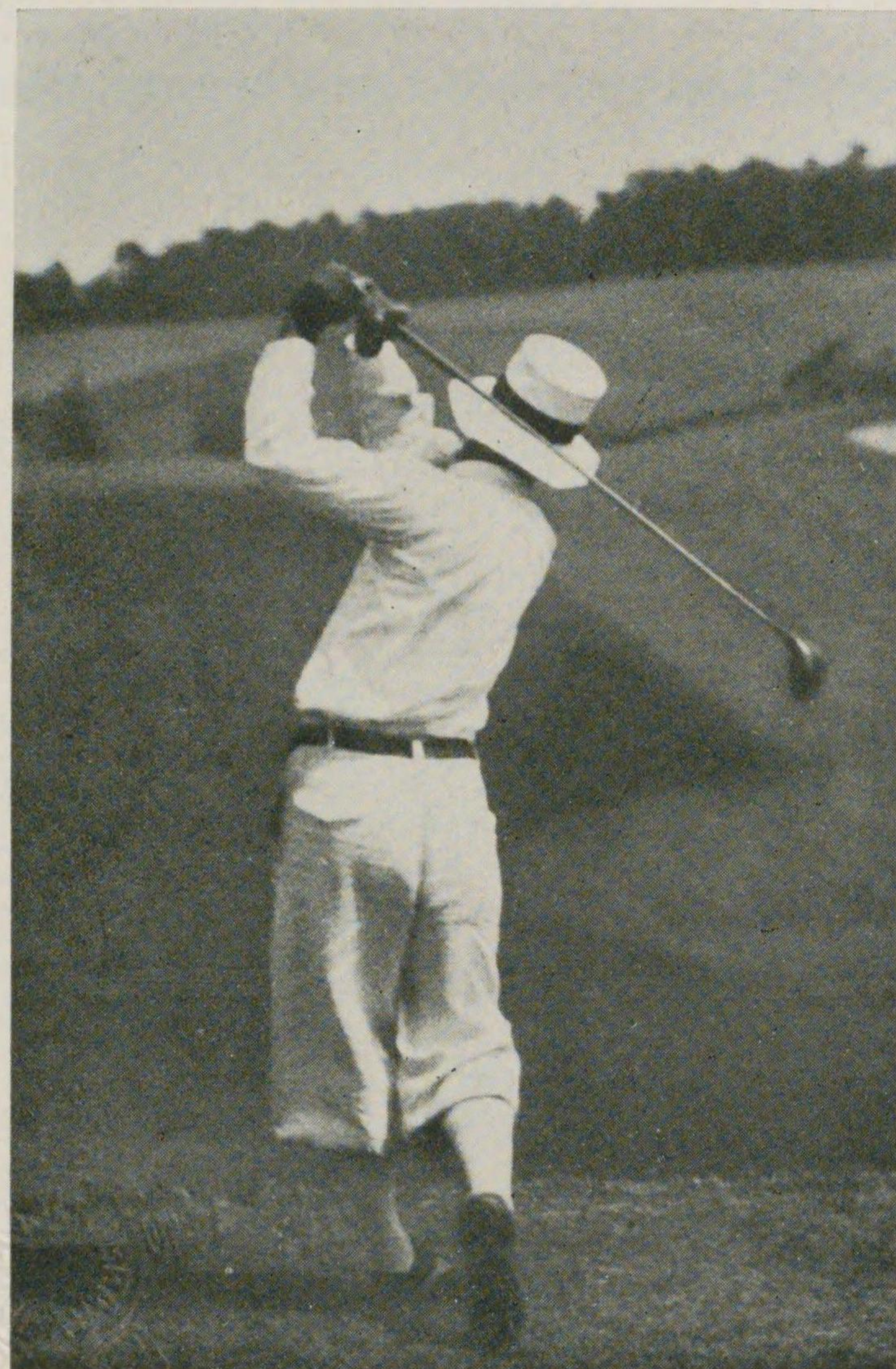
— 赤星四郎君 —



— 30 —

同 上 (2)

— 安 田 —



— 31 —

同 上 (3)
— 淺 見 —

此數枚の寫眞を通じて、四郎君の眼は所謂ウオッチ・ザ・ボールで終始球から眼は離れて居らぬ。尙ほ感ぜられる事は、前にバッティングの項で述べたやうに、實際に四郎君自身の言ふ通り、インパクトの前後即ち球の前後一尺ばかりの間をクラブ・ヘッドはライン・オブ・フライトに沿つて殆ど眞直ぐ動いて居ると云ふ事が想像されるではないか。勿論理學的に嚴重に云へば弧であるが、其處を一尺ばかりクラブ・ヘッドのライン・オブ・フライトの方向に眞直ぐに通すには身體全體のムーヴメントがさうなるやうに、動かさねばならぬ。是はドライブのみならずアイヨン・ショットに於ても亦然りで、フル・ショットには根本的のセオリーがあるのである。それはやゝともすると初心者が陥り易い弊害で、手ばかりで打つ者には絶対に出来ないものである。どうしても身體全體の纏つた運動でなければならぬ。

此の寫眞の内四郎君のは静止状態でうつしたのである。従て安田淺見

の實際打つてゐる間にスナップで寫したものは勢がない様に見える。そのつもりで御覽願ひたい。

第三十二圖と第三十三圖は前に述べた僕の球が空中に上らなくて困つた時分の形である。第一にグリップが悪い。左の手は振れ過ぎ、兩方の腕が如何にも突張つたやうになつて、球は右に這入り過ぎて居る。全く酷いシヤットフェース (Shut face) になつて球の上へハンマーの如く、クラブ・ヘッドを打込むやうになるから、球が高く上らなかつたのも無理がないのである。

尙ほ其上に第三十二圖のやうに身體が固くなつて居るので、ピボットの入り方が充分でない。それだから手ばかりで力を入れて打うとしたから、オーバースキング (Over swing) になつてしまつた。(第三十三圖)六郎君が矯正するの一番骨が折れたのは此オーバースキングである。

グリップは矯正して貰つて一時は兎に角直つた。併し此オーバースキング



— 32 —

誤れるドライブのスタンス及びグリップ

— 著 者 —